

'68

東京

江戸

日野市立図書館 ☎81-7354



1374877

市制施行 5 周年記念

1968年

日野市

市勢要覧



(昭和38年11月3日)
制 定

日野市章は、日野の日の字を丸くして、炎の如く燃えさかり発展して行く様を象徴している。

も く じ

発刊にあたって……1

沿革 2頁

教育文化……12

市政のしくみ……6

市民の幸せ……28

都市づくり……22

産業と観光……44

市民の生活……34

市内官公署一覧……49

市の文化財……48



発刊にあたって

日野市は、昭和38年11月3日市制を施行して今年でちょうど5周年を迎えました。この間、人口集中の激流の中にあって先輩各位の積み重ねられた、ご努力と市民の皆さまのご協力により、力づよくそして着実に歩みつづけ都市的形態を充実してまいりましたが、かつては“生産の地、”と呼ばれた工業、農業等の生産面の特色は次第にうすれ、10年後には人口20万の住宅都市となることが予想されます。今後は既成都市に見られる雑乱過密を未然に食い止め、緑の多い美しい住みよい都市を建設するため「基本的総計画」を立て、それに基づいて年次的に計画的に土地利用と街づくりをし、新しい近代的社会を形成して行こうとしております。そのために日野市は市民のもの、市民の手で市を作っていくという趣旨のもとに市民運動をより一層盛上げたいと考えております。このためには、今日まで歩んできた経過と現在のありのまゝの姿を知って頂くことが何より大切であると存じます。

ここにおとどけする市勢要覧は、市制施行5周年に際し、現在の日野市の現状と、市制後5年間の資料を中心に収録したもので、皆様に、ご一覽いたゞき、当市の実状をご理解いたゞくうえにお役にたてば幸いです。

昭和43年11月3日

日野市長 有山 崧



沿 革

日野という名の起りは、いろいろの説があるが、武蔵名所図絵によると、日野台あたりの地を多摩郡石津郷飛火野と呼んだとある。この飛火とは「のろし」のことで国府が置かれた時代にのろし台が設けられ、和銅年間(文武天皇1250年前)諸国の地名は嘉字二つを選んで名づけよとあって、これが火野となり、のちに日野と改めたとされている。

明治維新の大業により、江戸は東京と改まり首都となった。この頃から甲州街道は日ましにせわしくなり、当時は旅館十余軒、多摩川の渡船場をもつ宿場町として栄えた。

この頃は、行政上の区域や管轄が幾度となく変ったが、明治34年に桑田村を合し、旧日野町が形成された。

一方旧七生村は、明治22年の村政施行に際し、高幡、南平、平山、程久保、三沢、落川、百草の7ヶ村と飛地と合わせて七生村となった。

地域発展の足がかりをなした甲武鉄道(現在の国鉄中央本線)は明治23年に新宿～八王子間が開通し、また一級国道20号線(甲州街道)の立川と日野を結ぶ日野橋は、大正15年に架橋された。一方大正14年には旧七生村を東西に貫通する玉南鉄道(現在の京王帝都電鉄)が開通した。



明治、大正、昭和の初期までは農業を中心に繁栄し、それだけに人口は自然増加のみの時代であったが、昭和10年頃を契機として機械工業の進出が相つぎ、戦前10指に及ぶ工場が設立され、久しく静寂を保っていた農村は、工業都市へと様相を変えてきた。戦後の国内経済復興につれ、立地的に恵まれている当地へは、大小合わせ70社の工場が設立され、これに伴い人口は年々増加し、昭和33年2月1日、日野と七生村は両住民の合意により合併、人口27,818人の新日野町が誕生した。

この頃より東京都における人口の重心は三多摩地域へと移動し、23区に隣接した市町をはじめ、国鉄沿線について特に増加傾向が強くあらわれた。

当市も新町誕生と同時に開発された多摩平団地を始め、その他10指に余る集団住宅の開発等によって人口は飛躍的に増加し、昭和38年11月3日、都下12番目、全国559番目の市として「日野市」が誕生した。

その後も、住宅団地等の開発により人口は増加の一途をたどり、市では都市計画に基づく区画整理をはじめ、上水道の全地域給水、環境整備、商工業の発展、交通通信施設の完備、教育、文化、福祉施設等の拡充を図り、文化的都市造りのために邁進している。

位 置

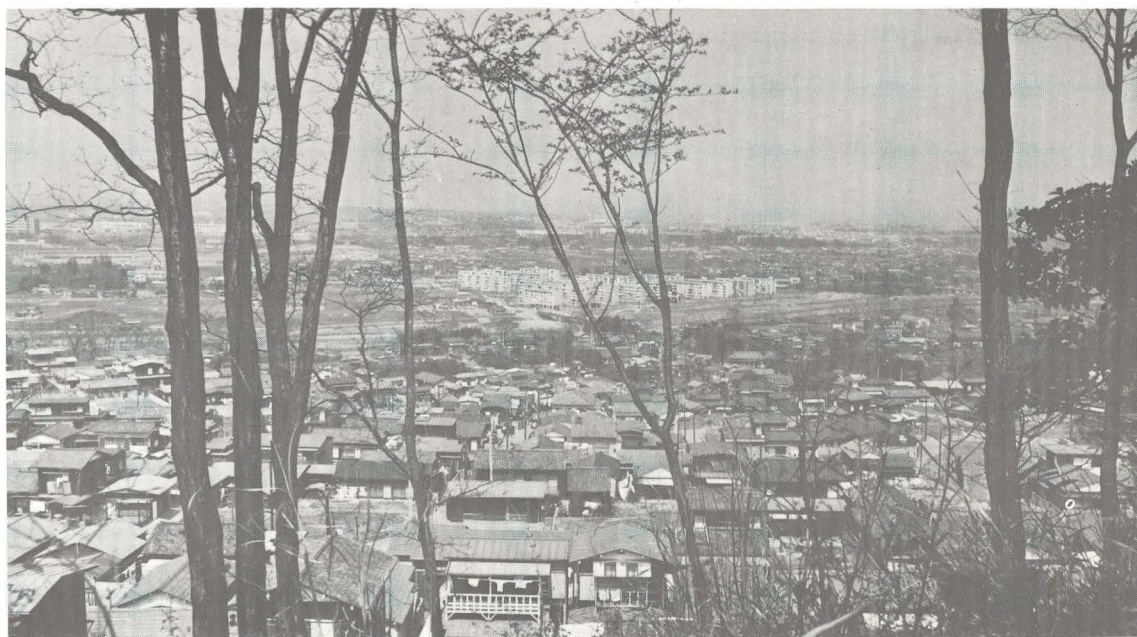
日野市は東経139度21分～139度26分、北緯35度38分～35度41分、東京都政区域の西南部で都心より35kmの地に位し、北は多摩川を隔て昭島市、立川市、国立市、府中市に、西は八王子市、南は多摩丘陵を境として八王子市、多摩町に相接している。

面積及び地勢

面積は27.11km²で、東西に7.5km、南北に5.85km。沖積土からなる平坦地が開けているが、西北部は洪積土による台地が形成され、南部は標高105mの多摩丘陵があり武蔵野の風景を一望のうちに収めることができる。

西北部の台地は昭和10年頃より大工場が進出し、一大工業団地を形成しているが、近年、住宅団地の開発も著しく、日本住宅公団が手がけた多摩平団地は日本有数の大団地として知られている

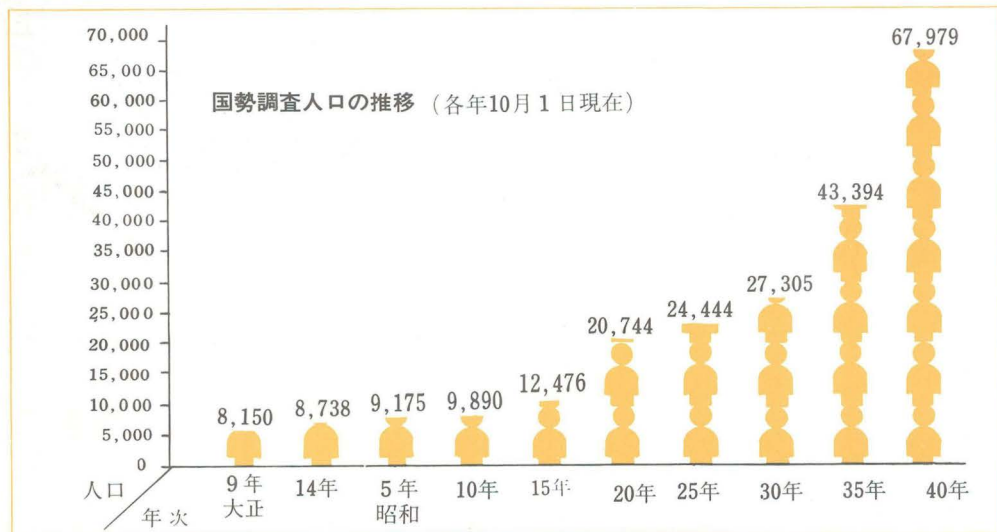
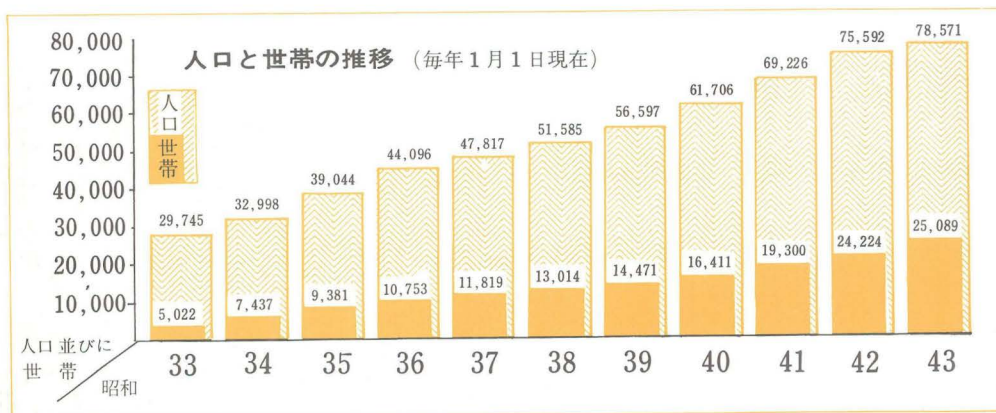
市内のほぼ中央を貫流する浅川及び北側を西から東へ流れる多摩川の両河川は、市の東南端に於いて合流し、この流域に肥沃な水田地帯があり都下有数の穀倉として知られている。



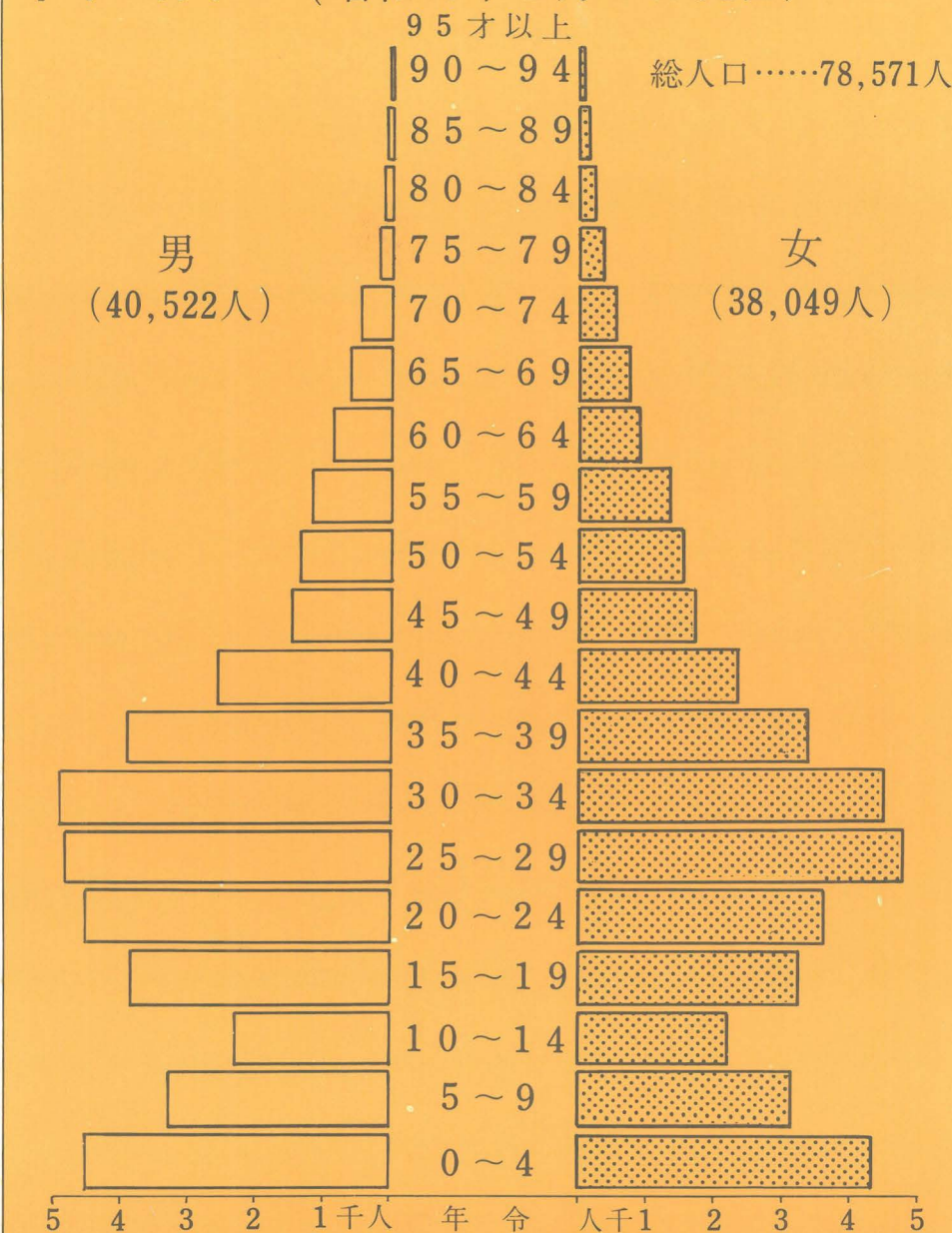
多摩丘陵より市内を望む

人 口

現在に至るまでの人口の推移をみると大きくわけて三つの段階が指適できる。つまり第一段階では、それまで定着状態を続けてきたものが、昭和10年頃からの大工場の進出に起因する日野台地区を中心とした開発をあげることができる。第二段階は、旧日野町と旧七生村の合併による人口の増加であり、第三段階は、日本住宅公団による多摩平団地の造成を契機とする周辺地域の宅地造成、並びに昭和40年を境とする一連の丘陵地帯の諸団地の増成に伴う人口増加である。躍進する日野市の基点を、市制施行年の昭和38年1月1日として、この人口を100とした場合、その指数は、152.2となり、最近5ヶ年間の人口の伸びは、26,946人となる。



年令別人口 (昭和43年1月1日現在)



市 政 の し く み



市 庁 舎

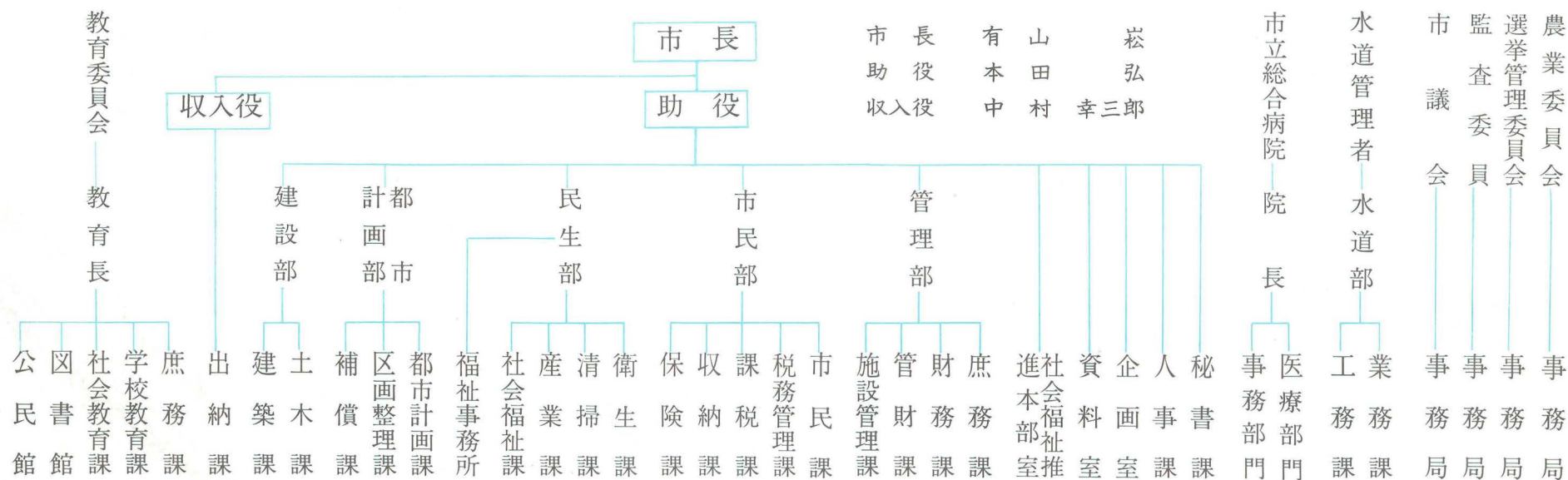
執行機関

市のしごとは市民生活のあらゆる部門にわたっています。市のしくみ、しごとを区分すると、市民に選出された市長とその補助職員（執行機関）および市民に選出された議員で構成されている市議会（議決機関）によって市政が運営されています。

また、このほか各種行政委員会があって、それぞれ市民生活向上のため民主的に運営されています。



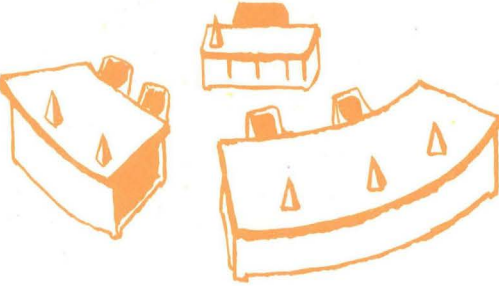
窗口風景



行政委員会

本市の行政委員会は、教育委員会、農業委員会、選挙管理委員会、監査委員の4つがある。これら委員会は、特定事務のより公正な執行を確保するため一般の行政機関から独立した地位を与えられた合議制（監査委員については独任制）の執行機関である。

- 教育委員会 — 教育長 1 名、教育委員 4 名
— 事務局
- 農業委員会 — 選挙による委員 16 名、推せんによる委員 4 名
— 事務局
- 選挙管理委員会 — 委員 4 名（補充員 4 名）
— 事務局
- 監査委員 — 委員 2 名（知識経験者 1 名、議員選出 1 名）
— 事務局



職員数調

(S43. 9. 1 現在)

総職員数									
男					女				
407 (58%)					289 (42%)				
市長の補助職員			教育委員会の職員		病院の職員		水道の職員	A	B
390 (56%)			157 (23%)		84 (12%)		43 (6%)		
吏員		雇員他		吏員		雇員他		吏員	雇員他
168 (43%)		222 (57%)		49 (31%)		108 (69%)		39 (46%)	45 (54%)
								11	32

(注) A…議会事務局職員 9人 B…各種行政委員会 13人

“市では常に事務能率の向上をはかっています”

“市民も自らの生活を守るため努力しています”



機動力をはつきする浄書印刷室



交通安全を願う市民運動

議 決 機 関

市議会は合議制による市の意思決定機関であり、本市においては30名の議員で構成されている。

議会は毎年4回の定例会と、必要に応じ臨時会が開催される。

市議会には条例により、総務、文教、厚生、産業建設の4つの常任委員会が設けられており、その部門に属する案件の調査、および議案、請願等の審議を行ないます。

また特定の案件を審査するため設けられる特別委員会は、その案件の審査が終了するまで存続する委員会で、現在、都市計画、水道の特別委員会があります。



市議会



市議会議員名簿

議席	氏 名	住 所	所属常任委員会	議席	氏 名	住 所	所属常任委員会
1	加 島 兼 吉	日野4764	産業建設	16	内 田 吉 久	宮355	産業建設
2	大 越 久 雄	豊田790	厚 生	17	◎三 浦 重 春	日野2755	
3	金 子 新太郎	日野7774	総 務	18	秦 正 一	西長沼1774	△ 厚 生
4	滝 瀬 政 吉	日野1600	文 教	19	滝 瀬 武 三	万願寺150	△ 総 務
5	正 国 務	落川450	総 務	20	日 野 源 作	日野2402	△ 産業建設
6	佐々木 昭 雄	南平1223	厚 生	21	高 橋 通 夫	高幡241	厚 生
7	○清水 禄之助	日野台2丁目29の9		22	清 水 芳 雄	豊田1182	厚 生
8	米 沢 照 男	平山24南平第一都営 3棟5号	産業建設	23	土 方 康	石田60	△ 総 務
9	北 村 文 芳	多摩平6丁目20 公住225～7	総 務	24	杉 山 亘	日野台2丁目25の3	産業建設
10	森 田 喜美男	西長沼1780	△ 総 務	25	伊 藤 定 一	川辺堀之内379	文 教
11	大 下 博	日野台4丁目3の8	△ 文 教	26	田 中 惣	日野台5丁目1の3	△ 厚 生
12	杉 山 寅三郎	平山2821	文 教	27	馬 場 淳 吾	平山3077	△ 総 務
13	西 沢 保	多摩平6丁目15の6	△ 産業建設	28	吉 富 繁 枝	多摩平2丁目8の1 公住180～2	△ 文 教
14	名古屋 史 郎	多摩平3丁目1の1 公住229～203	文 教	29	関 口 七之助	日野台4丁目10の6	厚 生
15	浜 田 勲	南平1473の233	文 教	30	石 川 佐太郎	多摩平5丁目13の19	産業建設

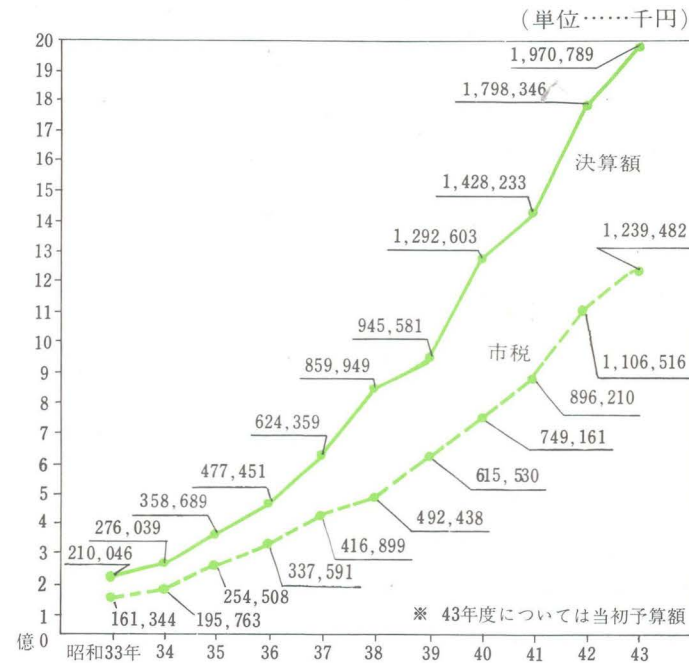
※ ◎…議長 ○…副議長 △…常任委員会委員長 △…同副委員長

財 政

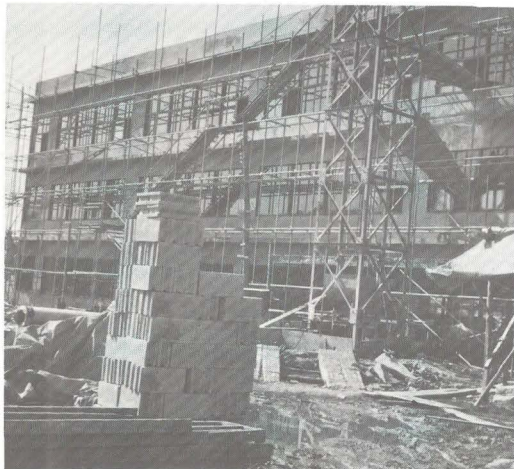
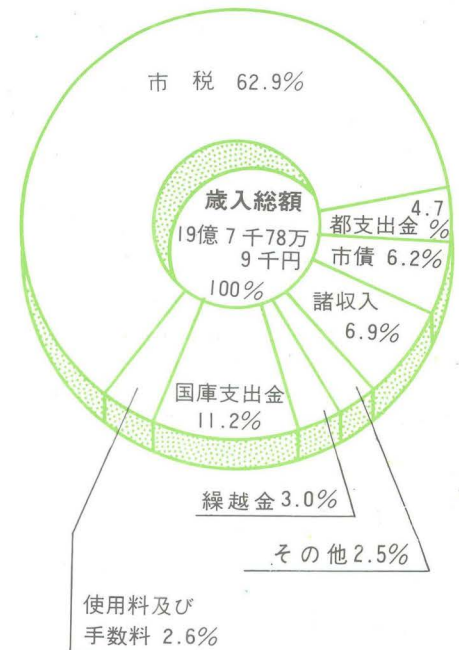
市行政の能率的、効果的な運営は、健全なる財政計画のもとに、その目的を遂行しなければならないが、本市の財政計画も最小の経費で最大の効果を得るべく市行政の健全化、近代化を推進し、漸次整備されている現状である。

急激に発展し続ける本市の財政規模は行政分野の拡大に伴い、増大の一途をたどり、昭和43年度の予算総額は32億1,225万円余で、市制施行をした昭和38年度の3倍強におよんでいる。今年的一般会計予算にあっては、従来の教育、土木事業を柱に、民生、福祉方面に一段と力を注ぎ、明るい健康都市をめざした積極的な予算化を図っている。

一般会計決算額
および市税の推移



昭和43年度一般会計予算(当初)



一般会計決算額の増加指数

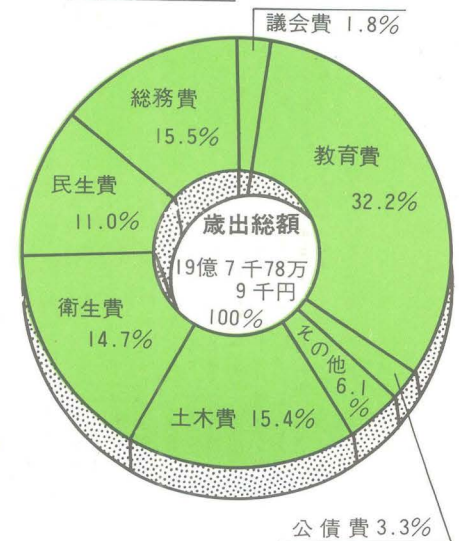
年度	指数
昭和33	100
34	131
35	171
36	227
37	297
38	409
39	450
40	615
41	680
42	856
43	938

市税の増加指数

年度	指数
昭和33	100
34	121
35	158
36	209
37	258
38	305
39	382
40	464
41	555
42	686
43	768

会計別の当初予算額(昭和43年度)

区分	予算額
一般会計	19億7千078万9千円
特別会計	12億4千147万0千円
国保	1億4千562万8千円
都市計画	4億6千500万0千円
下水道	1千382万4千円
病院	1億9千245万6千円
上水道	4億1千876万8千円
農業共済	579万4千円
総計	32億1千225万9千円



広報・公聴

本市の広報活動は、広報紙、広報車、掲示板等を媒体として、市政の動向について広く市民に周知している。

唯一の広報機関紙「日野市広報」は、1日と15日の月2回発行で、新聞折込みにより全世帯に配布している。

一方公聴活動は、市民の間に潜在する苦情、意見、相談を適確、容易にくみとり市政に反映させるため、市民相談室と「市民の声」制度を採用している。

また、茶の間の市政案内係として「市民便利帳」を発行、全世帯に配布している。

公 聴 活 動	
一 般 市 民 相 談	481
法 律 相 談	196
人 権 相 談	45
行 政 相 談	2
交 通 事 故 相 談	5
市民の意見を聞く会	206
「市民の声」処理カード収録	383
(※42年度実績)	

選 挙

民主政治の発展のためには、選挙が明るく正しく行なわれなければならない。

当市選挙管理委員会では、「明るく正しい選挙」をめざし、棄権のない清い選挙の管理と執行、また選挙に対する自覚の啓発につとめている。



市民相談の種類

- 一般市民相談
- 法律相談
- 行政相談
- 人権身の上相談



選挙人名簿登録者の推移

区 年分	男	女	計	備 考 (現在日)
37年	14,889	19,195	30,084	12月20日
38年	16,559	16,706	33,264	"
39年	19,483	18,814	38,297	"
40年	22,578	21,420	43,998	"
41年	25,472	24,223	49,695	11月1日
42年	27,887	26,536	54,423	9月30日
43年	28,990	27,618	56,608	9月30日

昭和43年7月1日執行
参議院議員選挙投票状況

男		女	
当日有権者 54,410人			
27,754人		26,656人	
投票者(36,986人) 67.98%		棄権者 (17,424人)	
18,668人	18,318人	9,086人	8,338人



教 育 文 化



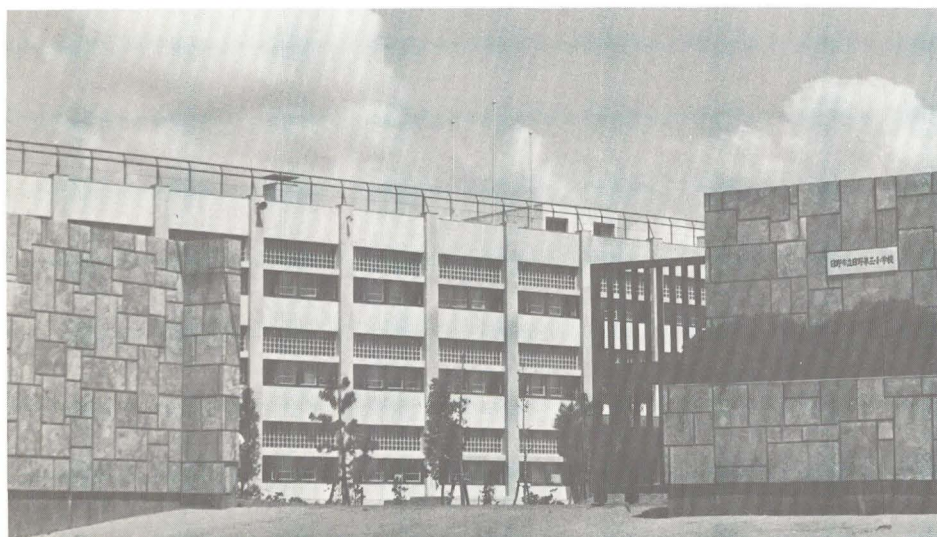
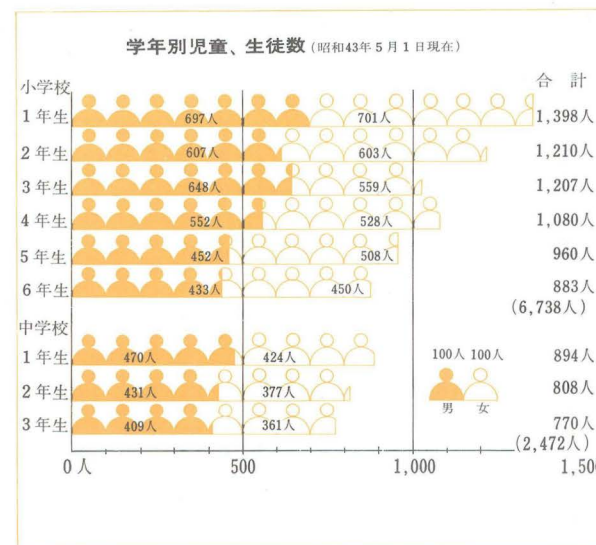
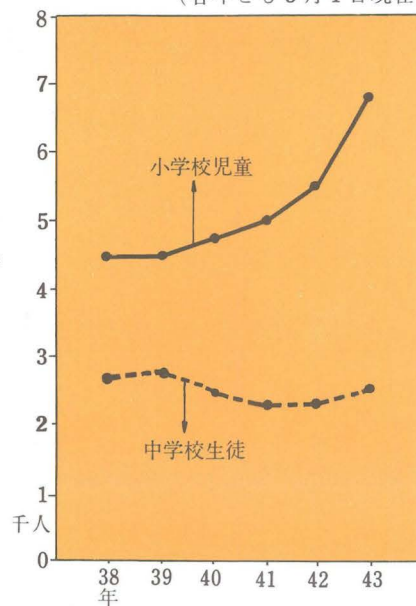
第一中学校

学校教育

本市は、毎年多額の費用を投じ施設設備、教育内容の充実に力を注いでおり東京都でも有数の教育尊重の市として注目されている。

学校施設は、急激な人口増に対処するため、小学校2校の新設をはじめ、小中学校の増改築は過去9年間で約20,000m² また、立川、横田両基地に離着陸する航空機の騒音防止対策として昭和36年以降防音工事に着手し、現在までに2万m²以上を鉄筋防音校舎に改築した。このほか学校プールは全校設置が完了し、屋内体育館も、中学校は昭和40年度で全校の整備を終り、41年度からは小学校の整備に入り、すでに2校が完成した。このようにして今や、社会増による教室不足解消事業を中心とした中で、屋内体育館その他の各種施設の充実や環境整備に力を注ぐと共に、教育内容の充実のため努力している。

児童生徒数の推移
(各年とも5月1日現在)



第三小学校



第一小学校

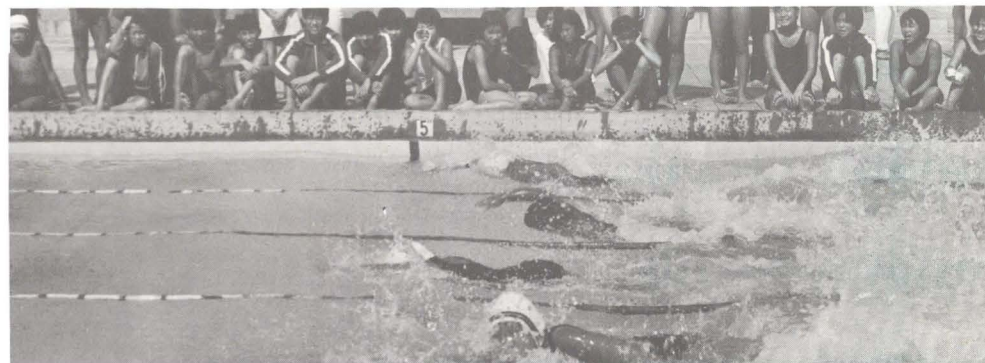


第一小学校	日 野	2 8 0 0	電 8 1 - 0 0 7 3
第二小学校	豊 田	2 1 8	8 1 - 0 0 7 0
第三小学校	日野台	2丁目1の1	8 1 - 0 1 0 1
第四小学校	日 野	4 3 0	8 1 - 0 0 3 8
第五小学校	多摩平	6 - 2 1	8 1 - 0 4 0 7
第六小学校	多摩平	3 - 2 1	8 1 - 4 6 8 6
潤徳小学校	高 幡	4 0 2	8 1 - 0 4 0 9
平山小学校	平 山	5 5 9	8 1 - 4 1 2 3
第一中学校	日 野	2 6 1 4	8 1 - 0 0 0 9
第二中学校	多摩平	4 - 5	8 1 - 0 0 5 6
七生中学校	豊 田	1 9 4 4	8 1 - 0 1 7 4

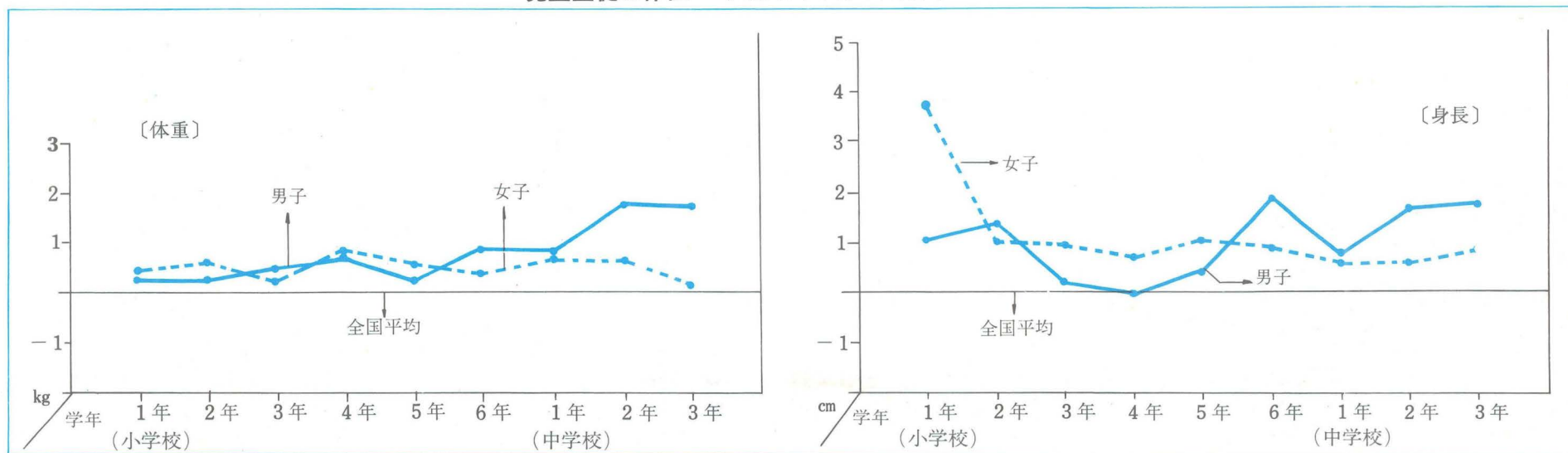
学 校 給 食

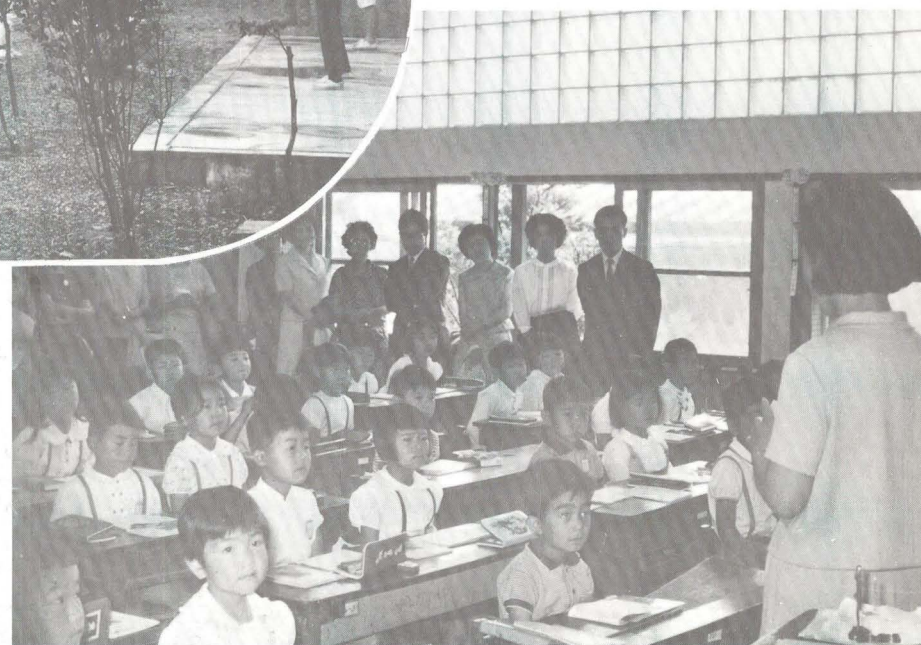
小学校においては昭和32年、1小、2小、3小、33年に4小に、また昭和34年に5小、潤徳小、平山小、さらに昭和40年に新設された6小に完全給食5日型（パン、ミルク、おかず）が始められ、現在全校に完全給食を実施している。

一方、中学校については、昭和38年10月からミルク50%、脱脂粉乳50%の混合乳によるミルク給食が全校実施され、これが、40年6月には牛乳に切りかえられ現在に至っている。



児童生徒の体位 (昭和42年5月1日現在)





幼 児 教 育

幼児期における教育の重要性について市民の認識が深められるとともに市立幼稚園の要望が強くなり、昭和40年度には第一幼稚園と第二幼稚園を開設したが、なお収容力が不十分のため、昭和41年度に第三幼稚園を設置した。

市立幼稚園の設置状況(昭和43年9月1日現在)

名 称	所在地	設置年月日	学級数	定員	教職員数
日野市立第一幼稚園	多摩平 4丁目3番地	昭和40年 4月1日	7	280	12
日野市立第二幼稚園	平 山 1 3 5 番地	昭和40年 4月1日	3	120	7
日野市立第三幼稚園	日 野 2,800番地	昭和41年 4月1日	4	160	8



平山にある市立第二幼稚園

社会教育

住民が社会生活の中でもっている課題を、自主的、相互的な教育活動によって解決し、発展させていくことを目的として、子供会の育成、青年講座、市民教養大学、婦人団体の育成、婦人学級、文化祭、視聴覚教育、文化財保護、新生活運動、スポーツ教室、体育大会及び各種レクリエーション大会等、文化活動、体育活動を積極的に推進している。

社会教育活動の場として、文化関係では中央公民館を中心として、新井、平山の両大地区センターを始め、各地に小地区センターを整備している。また、体育関係においては市民プール、総合グラウンド等の施設が完備され、鋭意市民の利用に供している。



婦人学級



子供会リーダー研修会



市民文化祭

文化団体数

種 類	連合体数	単位団体数
文化団体	6	10
婦人団体	1	7
青年団体	—	15
少年団体	1	35
P T A	1	11

市民の体育活動

体育連盟の種類

軟式野球



陸上



卓球



軟式庭球



山岳



排球



水泳



剣道



自転車



硬式庭球



弓道



クレ-射撃



サッカー



市民スポーツの普及

バレーボール



バトミントン



ベビーテニス



ママさんバレー



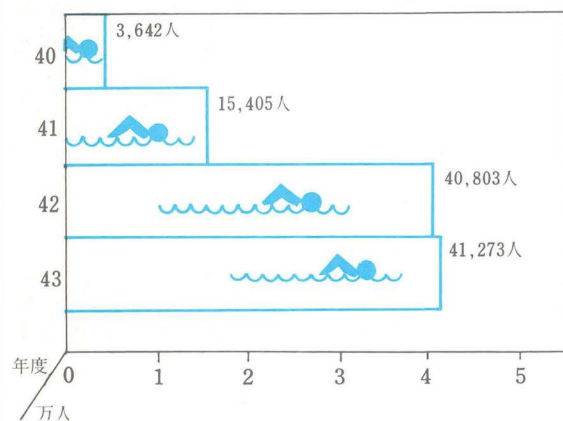
市民ソフトボール大会



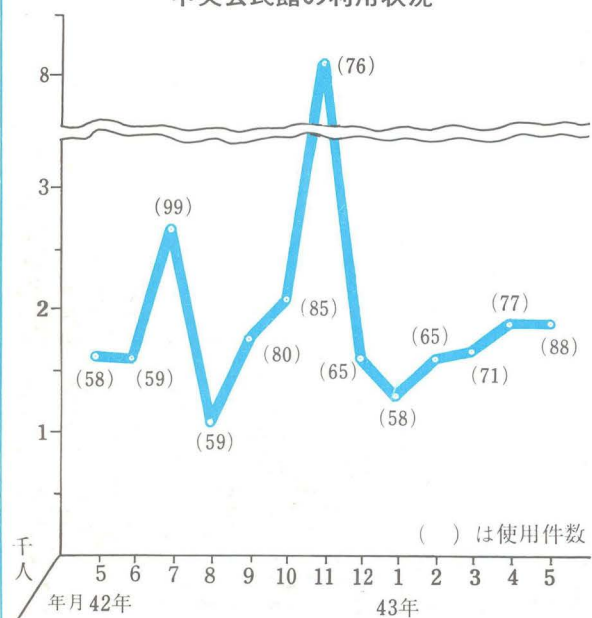
市民陸上競技大会

社会教育施設と利用状況

市民プール利用状況の推移



中央公民館の利用状況



市民プール



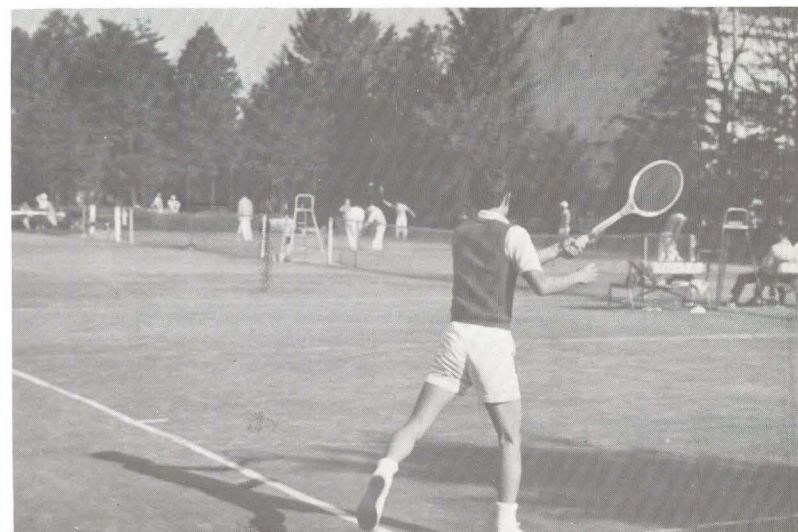
中央公民館



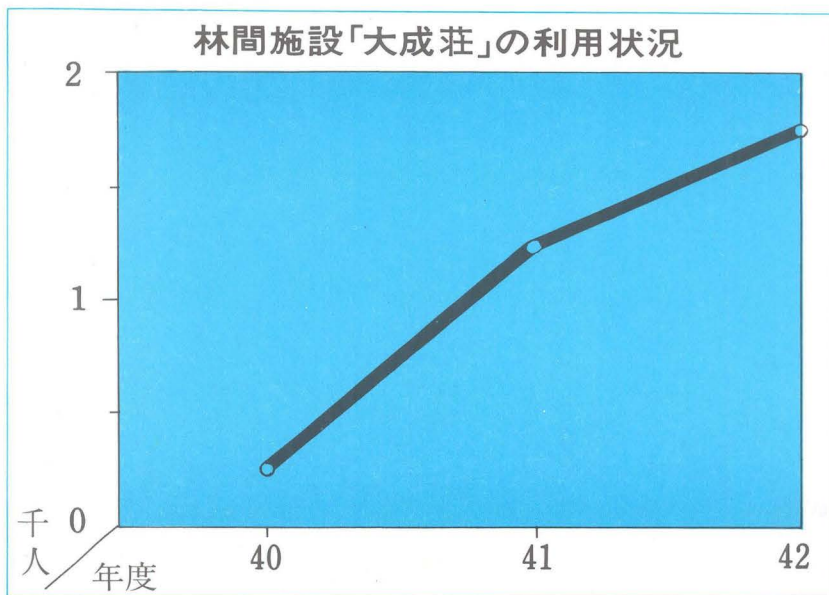
新井大地区センター



多摩川総合グラウンド



多摩平中央公園テニスコート



八ヶ岳林間施設「大成荘」

図 書 館

市立図書館は、昭和40年7月市民の教養と文化の向上をはかるために開設し、現在、3つの分館、(うち児童図書館1)2台の移動図書館車(ひまわり号)によって図書の貸出業務を行なっている。

当市図書館の特色は……

1. 市民に平等に図書を貸出し、自宅、通勤途上で読書し得るよう努力し、単なる席借りのための閲覧室は設置せず、図書の貸出しを重視している。
2. 市内の何処に住む市民でも、気軽に図書館を利用できるよう配慮し、一つの建物としての図書館ではなく、「移動図書館と分館による貸出組織」としての図書館により市内全域へのサービスを図っている。
3. 市民の求める図書は、何でも貸出するのが公共図書館の使命である。このため読みたい図書のリクエストを受付け、でき得る限り提供するようにリクエストサービスを実施している。



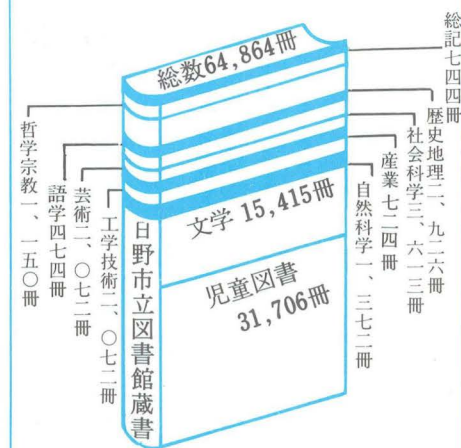
福祉センター図書館



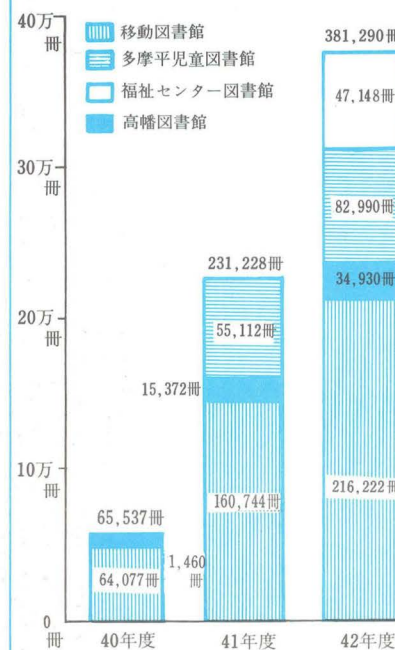
移動図書館「ひまわり号」

分類別図書数

(昭和43年8月31日現在)



館別図書貸出状況の推移



都市づくり

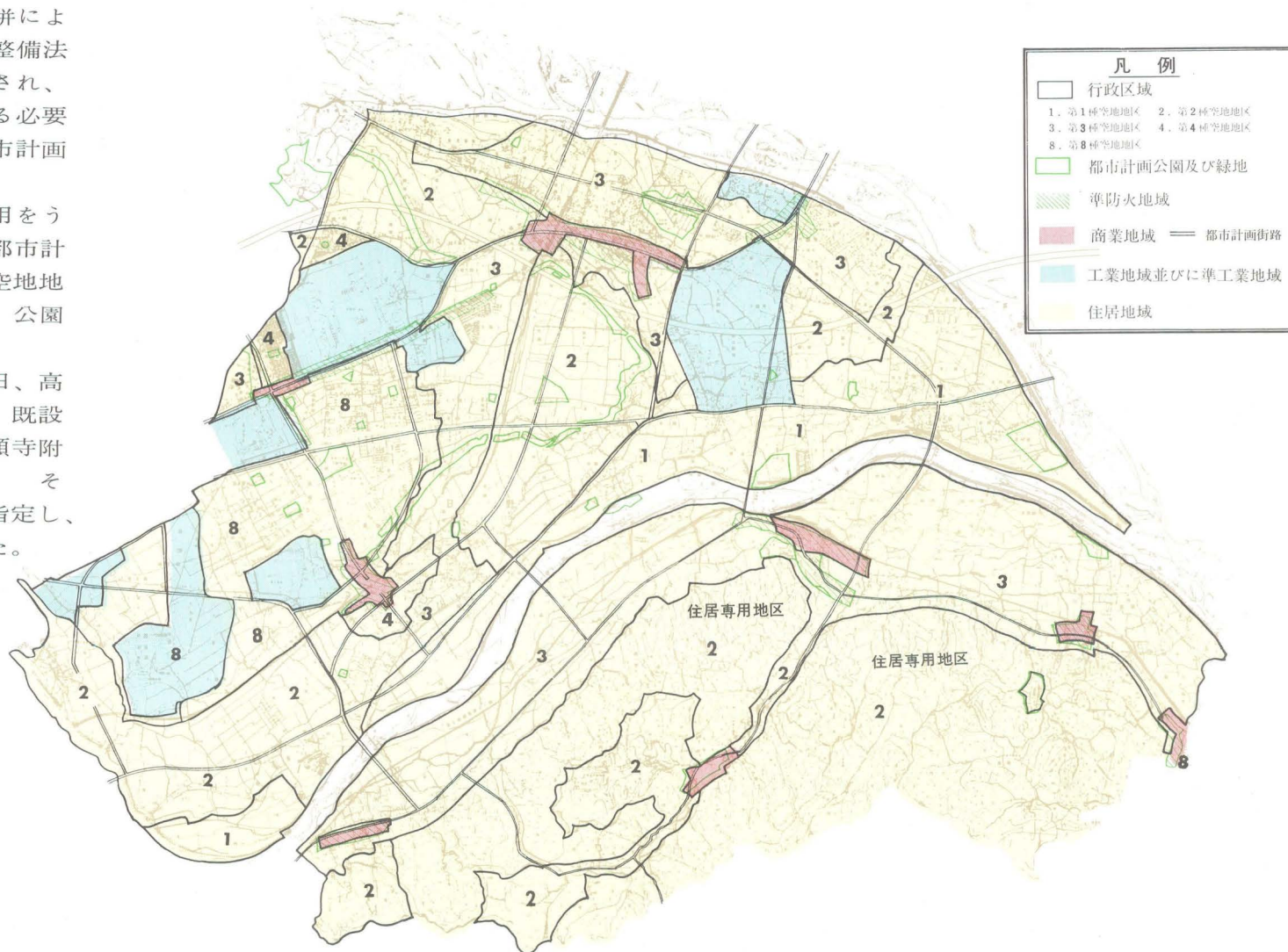


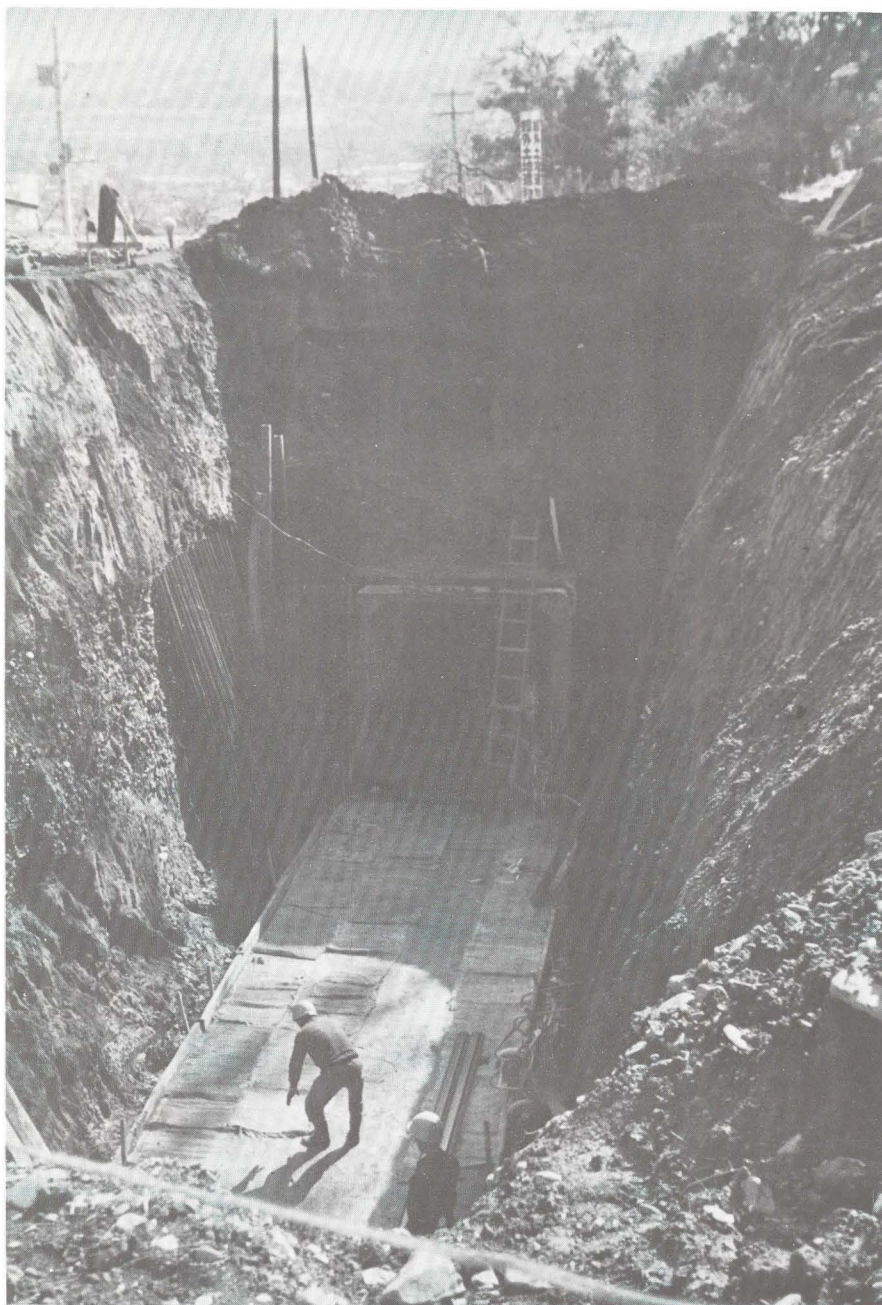
都市計画

本市の都市計画は当初立川都市計画区域に属していたが、昭和33年2月八王子都市計画区域に属する七生村の合併により、昭和34年5月27日付で首都圏整備法にもとづく市街地開発区域に指定され、新たに独自の都市計画区域を定める必要を生じ、昭和36年8月29日日野都市計画区域が誕生した。

日野市は新たに都市計画法の適用を受け首都圏整備計画に適合するよう都市計画全般にわたり街路、用途地域、空地地区、防火地域、土地区画整理事業、公園緑地等の計画を樹立した。

用途地域については、日野、豊田、高幡不動駅附近を商業地域に指定し、既設工場を中心に平山台、日野台、万願寺附近を工業、準工業地域に指定した。その他、大部分の地域を住居地域に指定し、空地割合を1種から8種までとした。





進む下水道管の埋設



区画整理審議会



市道の改修工事

道 路

主な道路としては、国道20号線（甲州街道）が日野橋より市街地を通り台地の工業地帯を経て八王子市に至り、都道137号線（川崎街道）は、国道より分岐し市庁舎前を経て多摩町に至るが、これら二街道を骨格として道路網が発達してきた。

都道はこのほか6路線があり、国道、都道に連絡し、補助する路線として、日野地区に749路線、七生地区に579路線、豊田地区に294路線、補助道路19路線の市道がある。



市内を縦断する中央高速自動車道



川崎街道

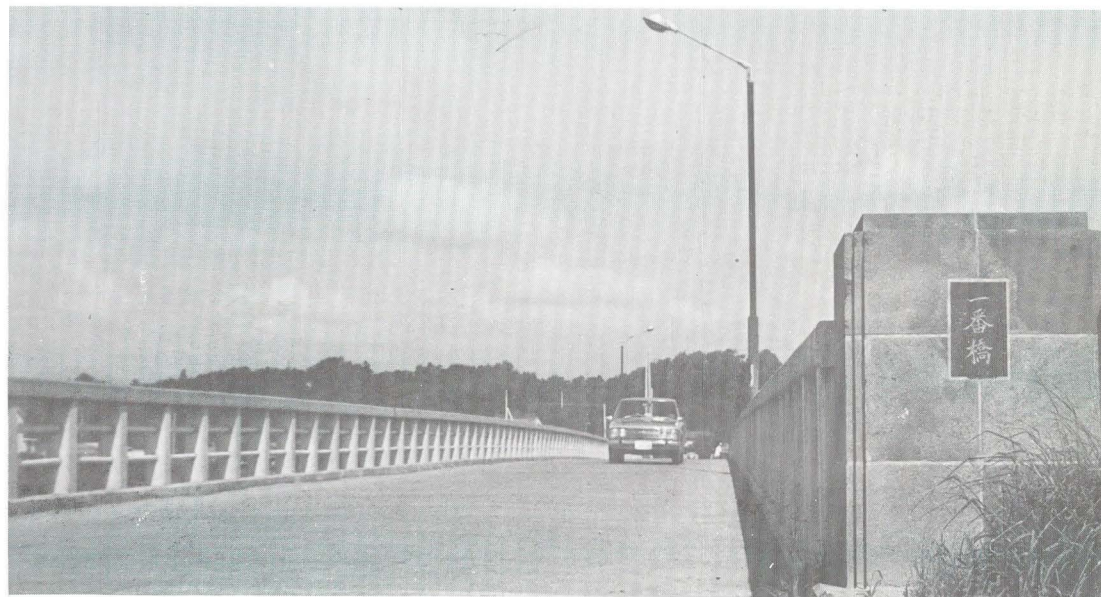
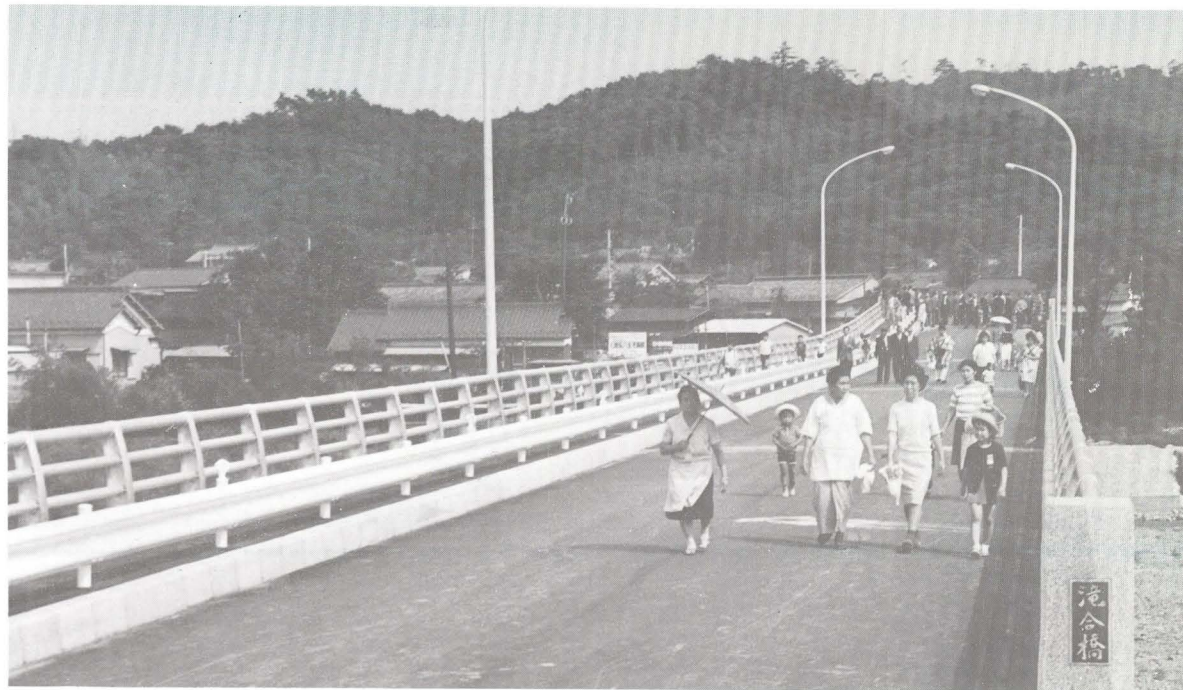
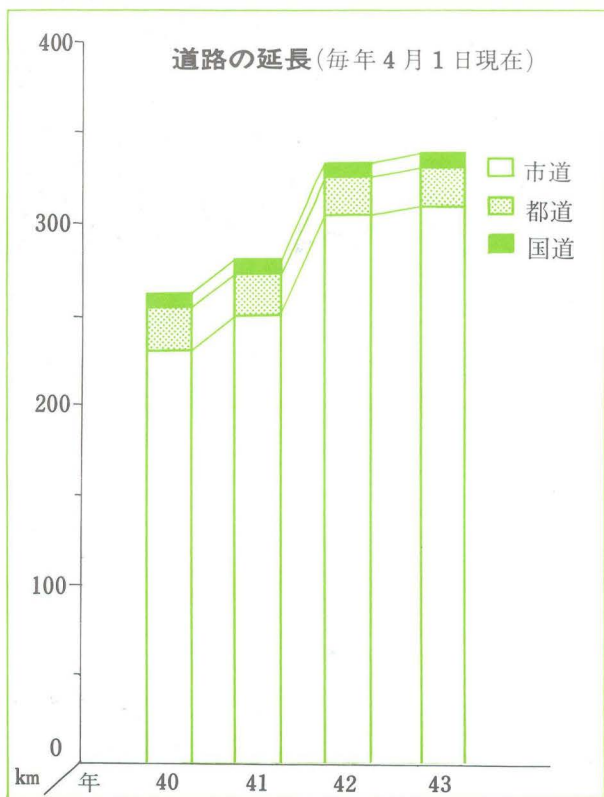


甲州街道日野橋

架橋の状況

橋りょう状況(昭和43年4月1日現在)

管理別	橋数	延長	面積	永 久 橋			木 橋		
				数	延長	面積	数	延長	面積
市道	126	m	m ²	124	m	m ²	2	m	m ²
		629.7	2,001.92		597.3	1,941.80		32.4	60.12
国道	1	368.9	3,873.56	1	368.9	3,873.56	—	—	—
都道	34	483.9	3,166.40	34	483.9	3,166.40	—	—	—
計	161	1,482.5	9,041.88	159	1,450.1	8,981.76	2	32.4	60.12



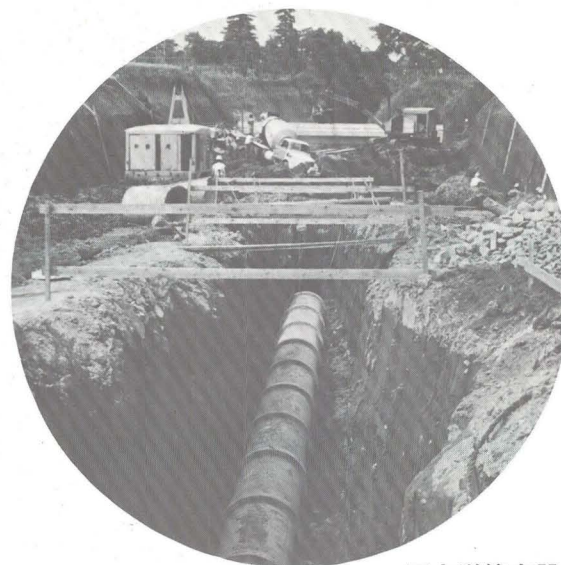
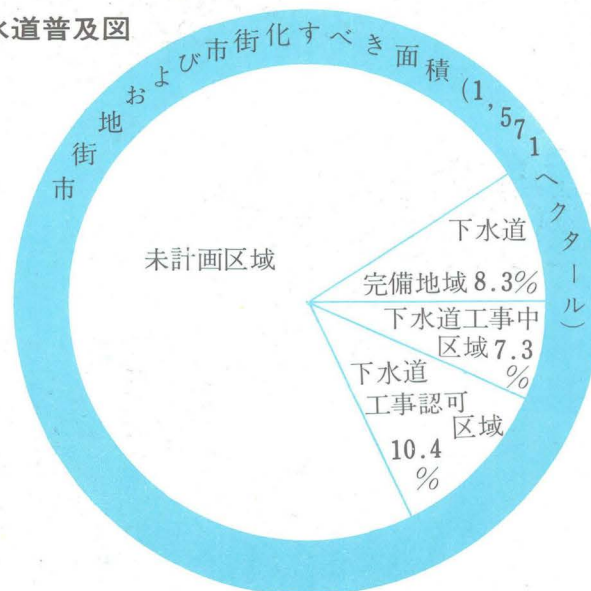
下水道

本市の下水道は、昭和33年多摩平団地の区域を排水処理区域とする約 130haを公共下水道事業として認可を受け布設されたのが始めてである。

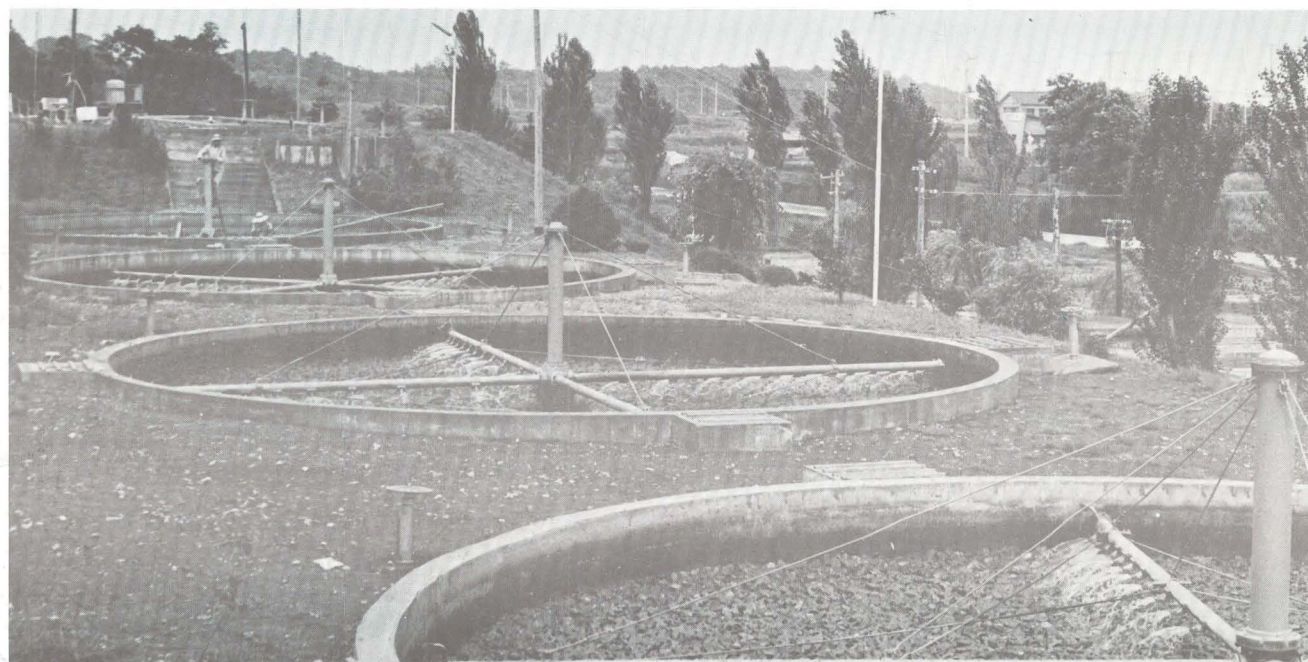
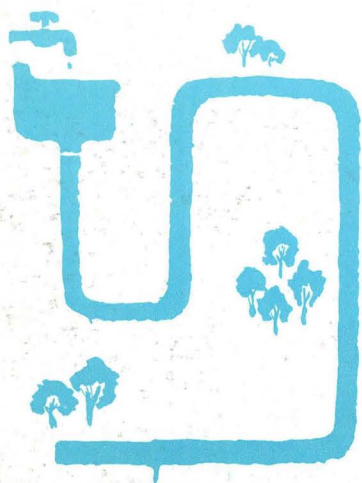
下水道は、近代都市における健康的、文化的な基本施設であるので多摩平団地の公共下水道事業に引き続き、昭和38年9月には、平山台土地区画整理事業の区域を排水区域とする約 115haの下水道事業に着手、43年度完成を予定している。

そのほか、神明上土地区画整理事業の区域約 136haと吹上団地土地区画整理事業の区域約28haも事業認可となっている。

下水道普及図



下水道管布設工事



下水道処理場

市民の幸せ



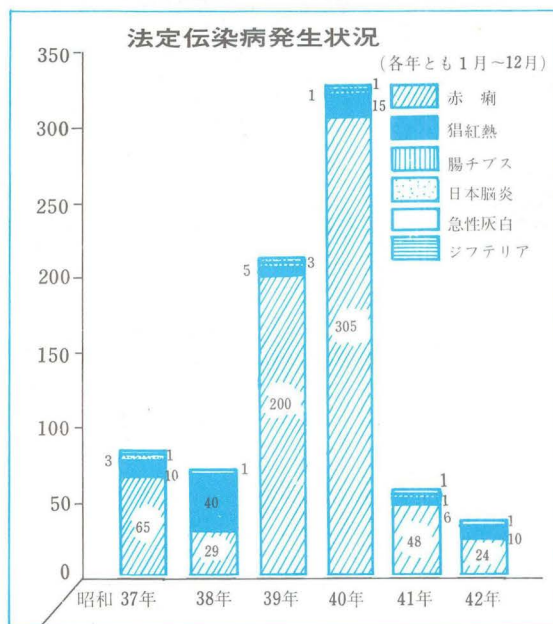
多摩川の夕暮

保健衛生

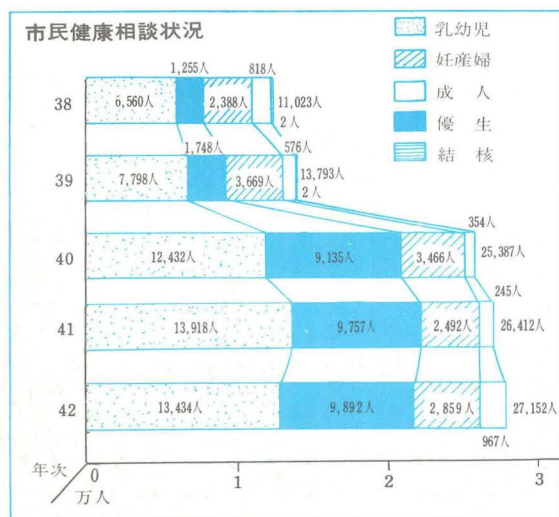
私たちが快適な生活を送るためには健康が第一、そこで市では予防衛生に力を入れ、病原体を保有または運搬する動物や昆虫撲滅のため自治会単位に薬剤を配布し、煙霧消毒の指導も行ない一斉駆除により効果をあげている。

一方各種予防接種は全額市負担により定期室に実施し成果をあげている。

さらに、結核予防、成人病予防、母子衛生にも力を入れ、特に福祉センター健康相談室には保健婦3名を配置、市民の健康管理相談をはじめ、乳幼児の保健衛生指導を行なっている。



乳幼児の保育相談



煙霧消毒による一斉駆除

住 宅

人口の都市集中化の傾向に対応した都市近郊としての当市は、山林丘陵地の住宅地としての造成、並びに一般住宅の増大、民間企業としてのアパート、貸家等の増加と相まって、市、都、公社、公団等関係機関の積極的な住宅政策により住宅建築は急速に進み、今後も増大の一途をたどると思われる。



多摩平公団住宅



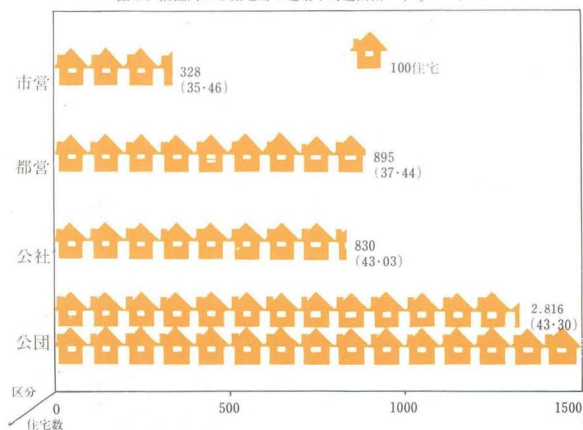
新川辺市営住宅

市営・都営・公社・公団住宅数

昭和43年3月31日現在

注1. 市営：日野市営住宅
都営：東京都営住宅
公社：東京都住宅供給公社住宅
公団：日本住宅公団住宅

注2. 括弧内は1住宅当り建築平均延面積：平方メートル



南平都営住宅



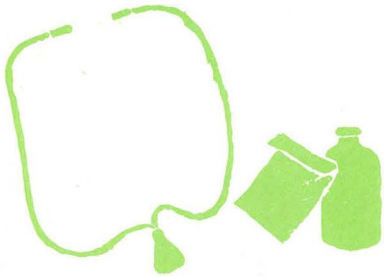
平山公社住宅

(毎年4月1日現在)

国民健康保険

本市の国民健康保険事業は、旧七生村との合併以前より実施されていた事業を継承し、昭和33年2月1日新機構のもとに再発足、順調な歩みを続け40年1月からは全加入者7割給付が実現し、内容は一段と向上した。

また保健施策の一環として行なっている健康相談及び保育相談等保健婦活動の促進によって市民の保健福祉の向上と疾病の予防、あるいは疾病の重症化を防ぎ、広く市民の健康管理につとめている。

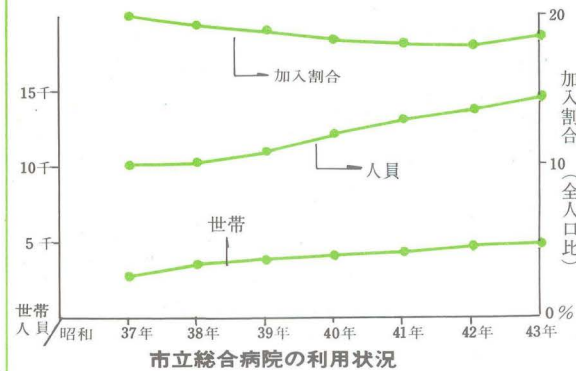


国民年金

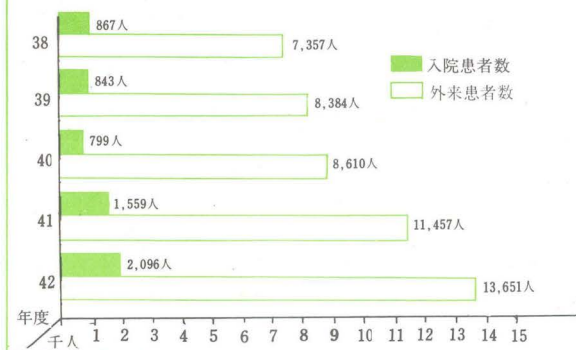
拠出制年金が昭和36年4月から全面的に発足し、国民皆年金の体制が確立された。

その後、福祉年金額の引き上げ、支給制度の緩和等がはかられ、現給付の種類は、老令、通算老令、障害、母子、準母子、遺児、か婦の各年金と死亡一時金の8種類におよんでいる。

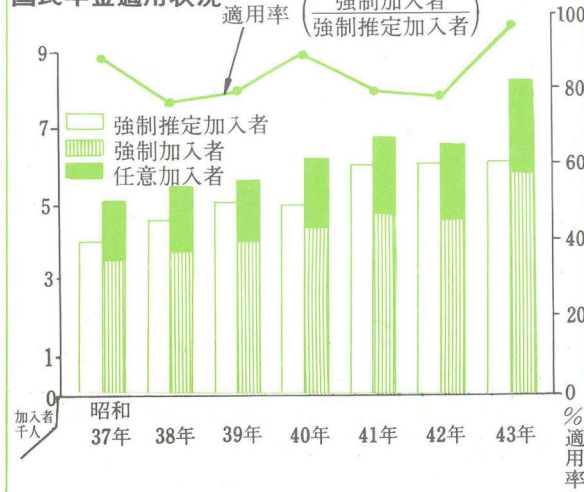
国民健康保険（加入状況）



市立総合病院の利用状況



国民年金適用状況



市立総合病院

昭和36年11月、5科（内科、外科、産婦人科、眼科、耳鼻科）20床をもって開業発足した。開業後は、順次一般市民の信望を得て、患者数は年々増加し、病床は常に満床となり、その増床と、さらには小児科、皮膚科、整形外科など、診療科目の増設が強く要望された。

そこで昭和39年に2ヶ年計画で増築工事を行ない、昭和40年5月には病床も100床となり、診療科目も3科を新設し、内容設備を充実した。

環境衛生

ゴミ、し尿の処理をはじめ環境衛生の問題は、快適な日常生活を送るために欠くことのできない重要なものです。

当市では昭和38年他市に先がけ「美化都市宣言」を行ない、市民の間で組織された美化協力員と民間団体の密接な協力体制のもとに、明るい住みよい町づくりを推進している。

ゴミ、し尿の処理は、28年と31年から開始、34年には多摩川と浅川が合流する新井地区に市独自の近代的な終末処理施設の竣工を見た。

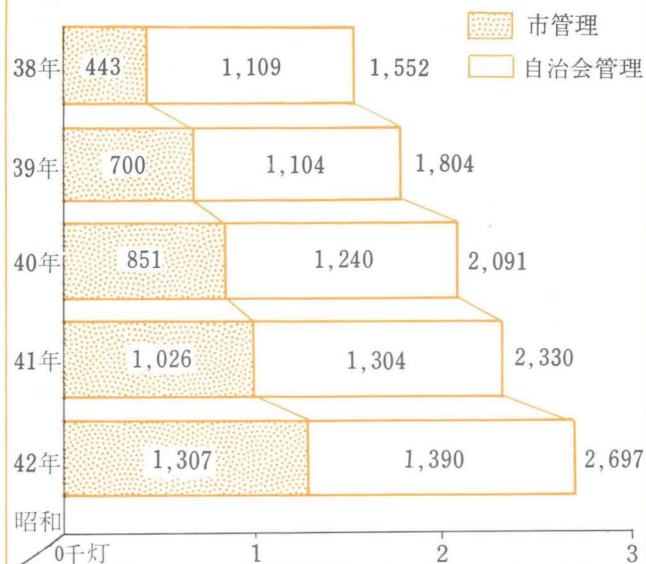
その後の人口、産業の都市集中によりゴミの質量ともに変わり、処理方法並びに処理能力についても改善を加え、現在は混合収集により無料で実施している。

現処理能力は、

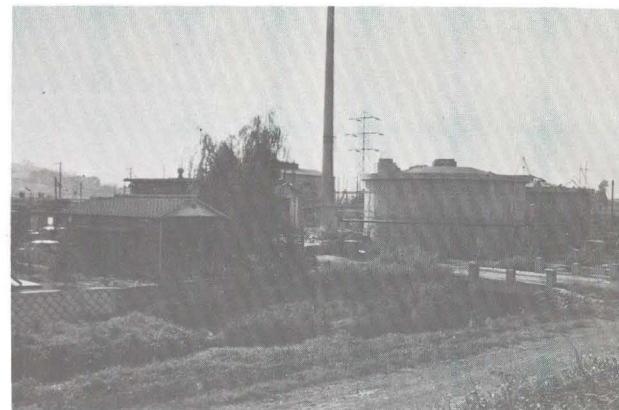
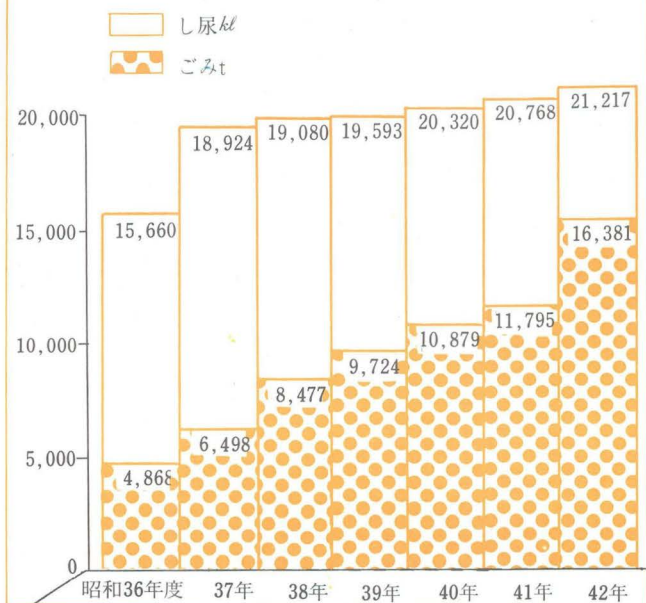
{ ゴミ 30t / 日
 { し尿 141kl / 日



街路灯の設置状況 (各年とも3月31日現在)



ゴミ・し尿処理状況



社会福祉

市民が豊かな生活ができるような社会、これが社会福祉行政の目標である。そのため生活保護法をはじめ、いわゆる福祉六法を根幹とし「ゆりかごから墓場まで」と幅広い福祉施策がとられている。

市の福祉事務所では、生活に困っている人や老人、精神薄弱な人たちのため医療や教育などの扶助を適切に行なうと共に、児童福祉面でも保育行政の充実、児童遊園の拡充を図っている。

また施設面では、市民福祉の増進、特に老人の教養向上、レクリエーションの場として福祉センター中央会館をはじめ、高幡会館、さらに大小地区センターが設置されている。

保育園4ヶ所、学童保育所2ヶ所、公益質屋1ヶ所、児童遊園29ヶ所。

日野市社会福祉協議会（日社協）

社会福祉協議会は地域社会において、住民が主体となり社会福祉、保健衛生、その他生活の改善向上のため、みんなで協力し地域の実情に応じ住民の福祉を増進することを目的とする自主的な組織です。

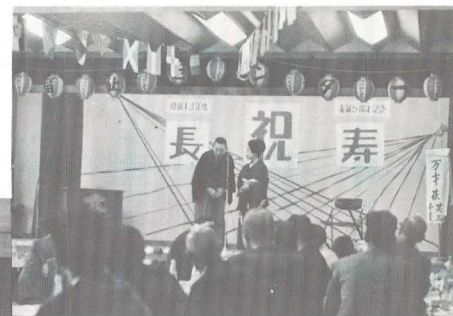
本市の社協は、昭和37年6月住民主体の社会福祉団体として設置され、着々その成果をあげ、42年4月社会福祉法人の認可を得、名実ともに幅広い福祉活動を行なっている。



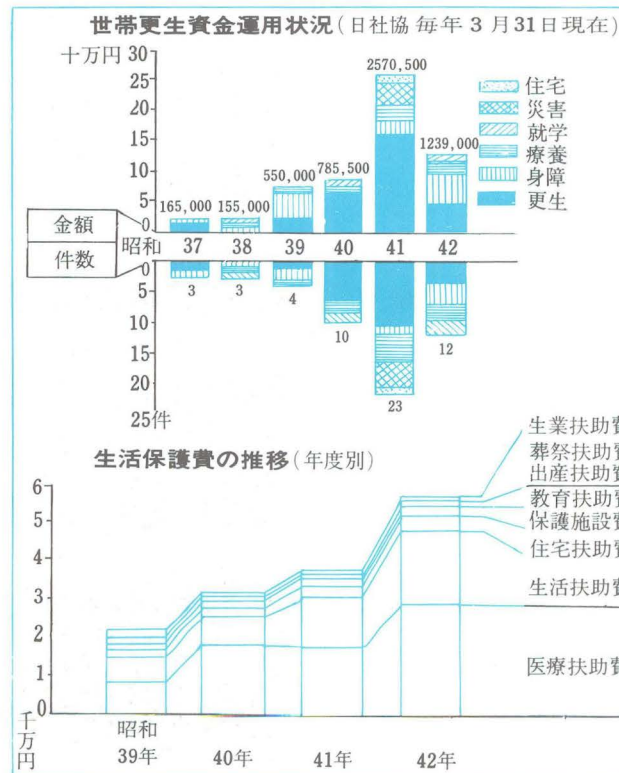
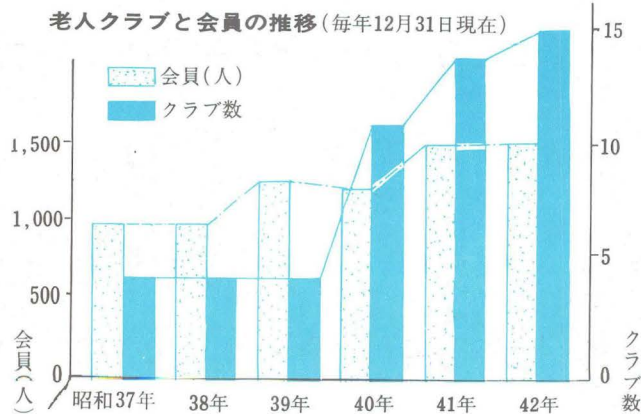
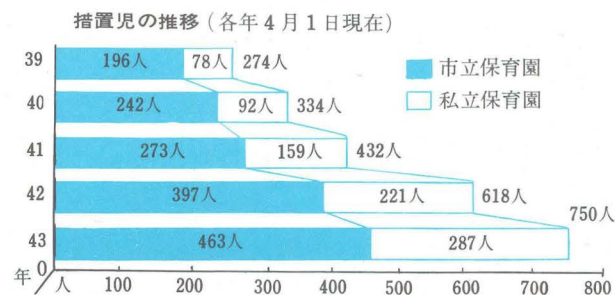
保育園



福祉センター



敬老大会



市民の生活

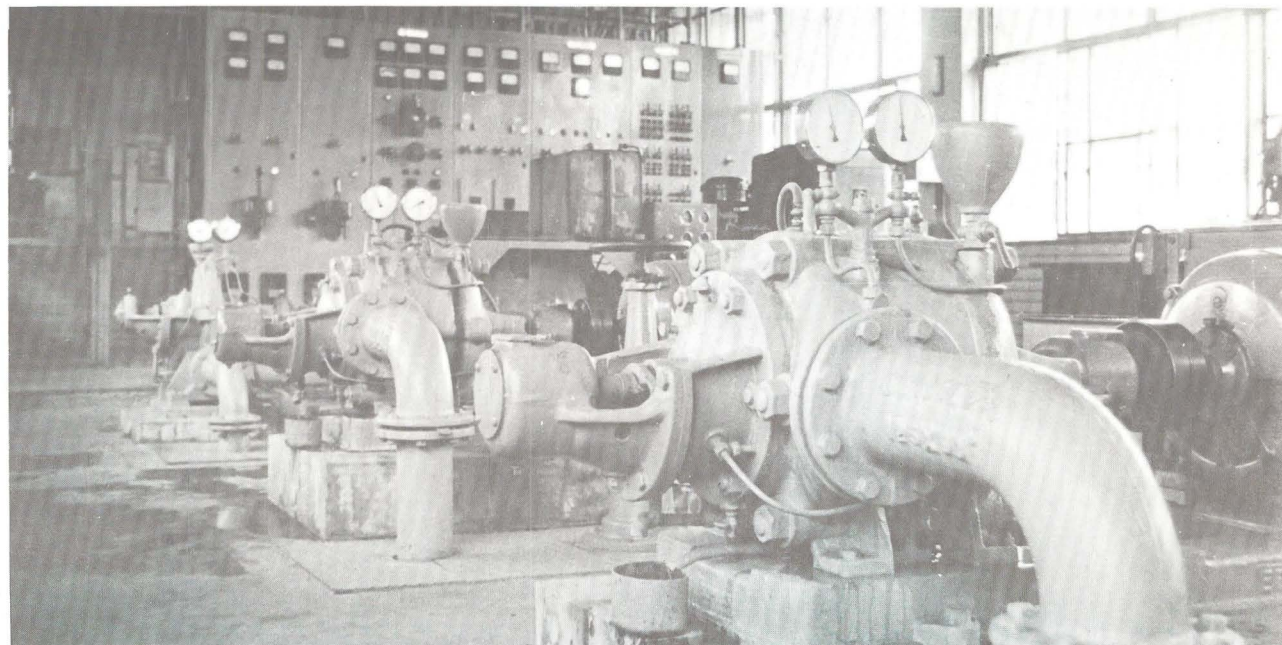


上 水 道

本市の水道は、水源を良質の地下水に求め、昭和35年6月給水を開始した。人口の急増に比例し水の消費量も年々ふえ当初計画の給水人口10,000人を19,500人に変更、ついで、昭和38年、第二期拡張事業により、計画給水人口64,000人、1日最大給水量23,460立方メートルにした。しかしながら、昭和41年に至り南部丘陵地帯の日本住宅公団による開発並びに大小幾多の宅地造成が急速に進むにつれ、急きょ第二期拡張計画を変更し、昭和46年を目途に、計画給水人口101,800人、1日最大給水量38,684立方メートルの完成を急いでいる。

給水状況の推移

年度	区分	38	39	40	41	42
世帯		14,888	17,605	19,848	24,425	25,253
人口		57,627	64,548	70,404	76,362	79,279
給水	世帯	7,867	8,551	9,283	10,881	12,311
	人口	31,424	33,692	35,739	41,892	46,427
	普及率	54.5%	52.2%	50.8%	54.9%	58.6%
1日平均給水量		m^3 6,180	m^3 6,998	m^3 7,810	m^3 9,367	m^3 10,567
1日最大給水量		m^3 8,961	m^3 8,597	m^3 10,133	m^3 11,948	m^3 15,382
1人1日平均給水量		ℓ 197	ℓ 268	ℓ 219	ℓ 224	ℓ 236



多摩平の浄水場（第3）



水道管布設工事

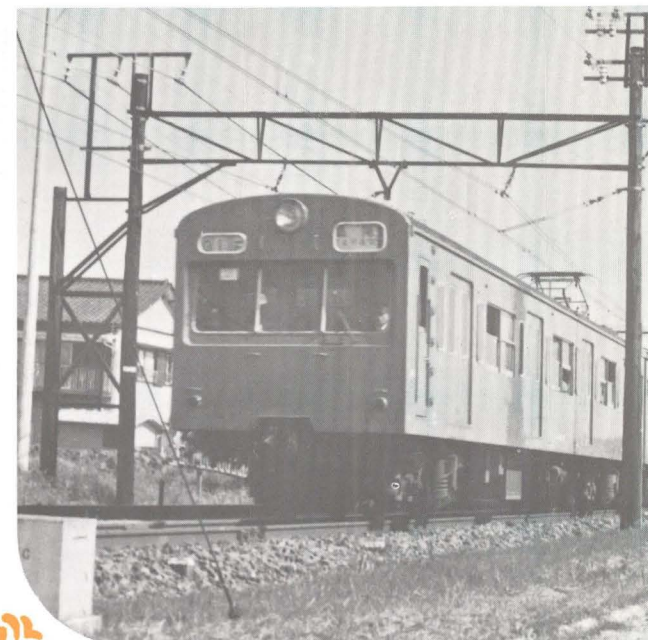
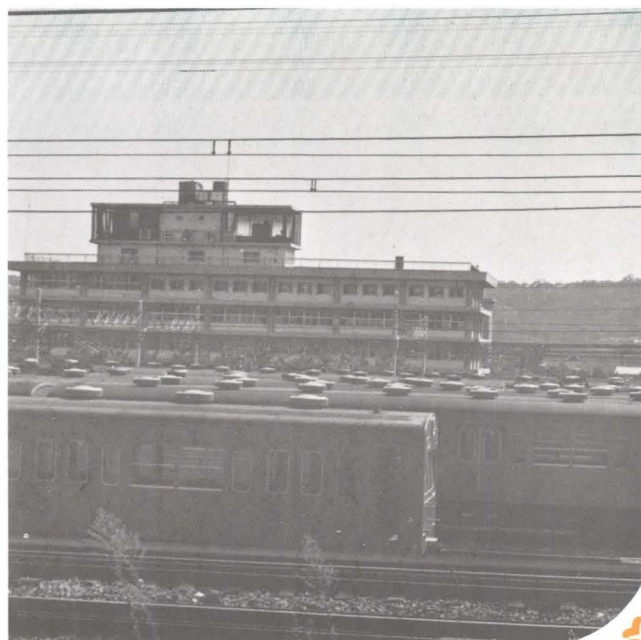
交 通

本市のバス路線は、市内を区域とするもの10系統、日野市を起点とするもの10系統、市の一部を通過するもの3系統、全部で23系統となっている。
市の区域内バス路線の起点は、国鉄日野駅、豊田駅および京王線高幡駅となっている。

一方、本市を通過する鉄道は、国鉄中央本線、私鉄京王線があり、国鉄は日野・豊田の二駅、京王線は百草、高幡不動、南平、平山城址の4駅を配している。
このほか高幡不動より、多摩動物公園前を終着駅とする多摩動物公園線がある。

年間鉄道乗降客数の推移 (単位：千人)

年度 乗降別		38		39	
		乗車人員	降車人員	乗車人員	降車人員
中央線	日 野	4,584	4,578	5,283	5,283
	豊 田	5,237	5,255	5,832	5,832
	百 草	472	475	551	548
京 王 線	高 幡 不 動	1,259	1,252	1,172	1,233
	南 平	290	289	320	317
	平山城址公園	465	445	602	561
	多摩動物公園			635	583
40		41		42	
乗車人員	降車人員	乗車人員	降車人員	乗車人員	降車人員
5,327	5,327	5,322	5,322	5,453	5,453
6,226	6,226	6,523	6,523	6,657	6,657
656	663	703	720	825	845
1,171	2,303	1,484	1,545	1,918	1,997
374	356	520	500	652	627
858	825	762	741	788	766
963	875	1,045	1,018	1,310	1,276



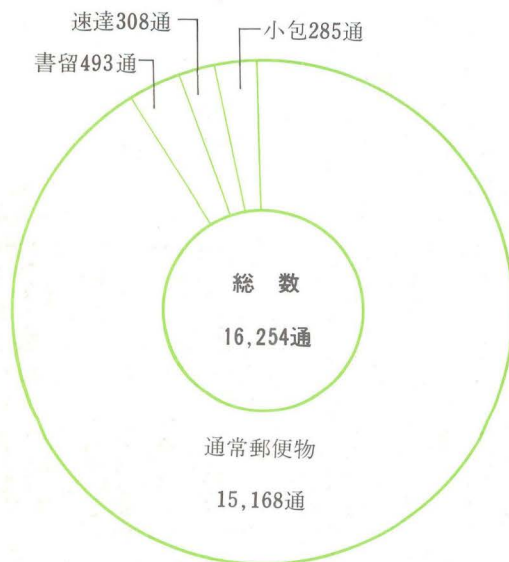
郵便

日野郵便局は、昭和37年11月、それまでの特定郵便局から普通郵便局に昇格し、同時に電話業務が日本電信電話公社に移管、さらに昭和39年3月、窓口の受付のみを残して電報業務も移管され郵便業務の一本化がなされた。

現在局員 97 名、集配地域は日野全域、取集区 2 区、通常配達区 20 区、速達配達区 5 区、小包配達区 2 区であり、一日平均約 2 万通の郵便物を集配している。

このほか特定郵便局が 6 局あり市内の郵便ポストは、53 箇所設けられている。

一日郵便物配達数(昭和42年12月1日)



一日郵便物引受配達数 (昭和42年12月1日)

種別	集配数(通)		
	受付数	配達数	計
通常郵便物	7,222	15,168	22,390
書留	123	493	616
速達	128	308	436
小包	24	285	309

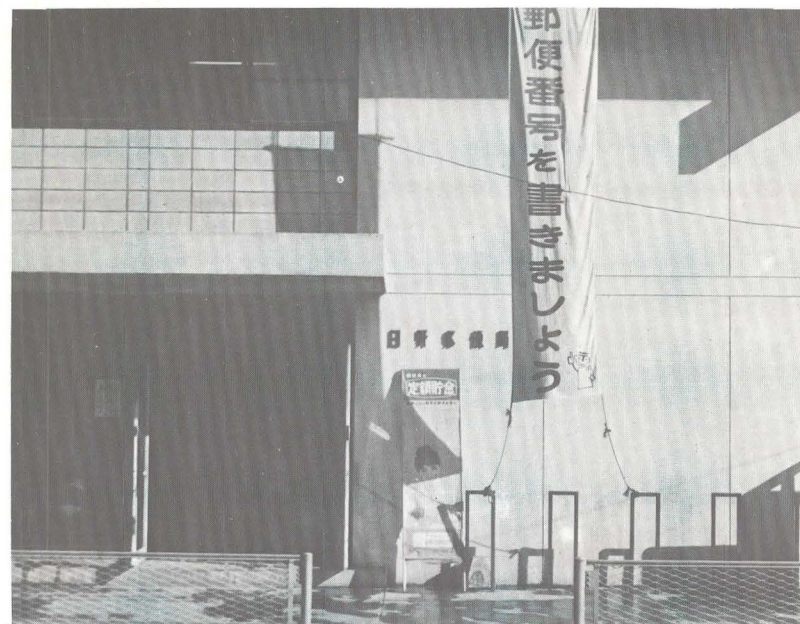
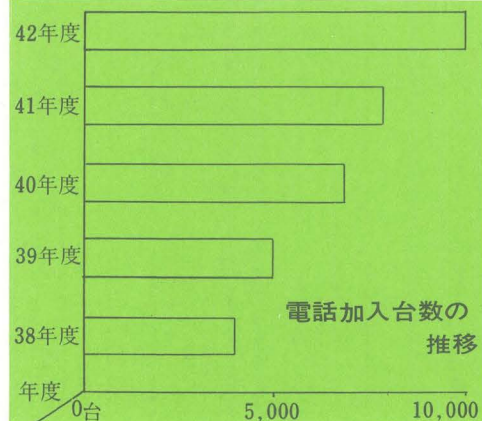
一日電報取扱件数 (昭和43年9月1日)

配達区域	取扱件数		
	発信数	受信数	計
日野市域 (百草落川の一部除く)	10	100	110

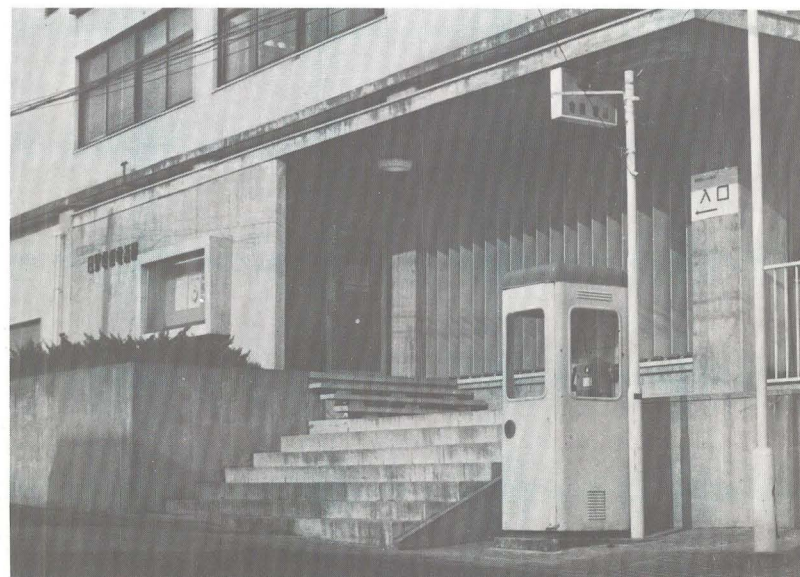
電報・電話

日野電報電話局は、昭和37年に開局され、当時の電話加入数は 2,053 回線であったが、現在は 9,987 回線(43年3月31日現在)と当初の約 5 倍に達し、現在の普及状況は約 2.5 帯に 1 台の割合である。

また、電報の配達区域は市の一部(百草、落川)を除いた区域と八王子市の一部であり、その取扱件数は、一日平均、発信数 6 通、受信数約 80 通である。



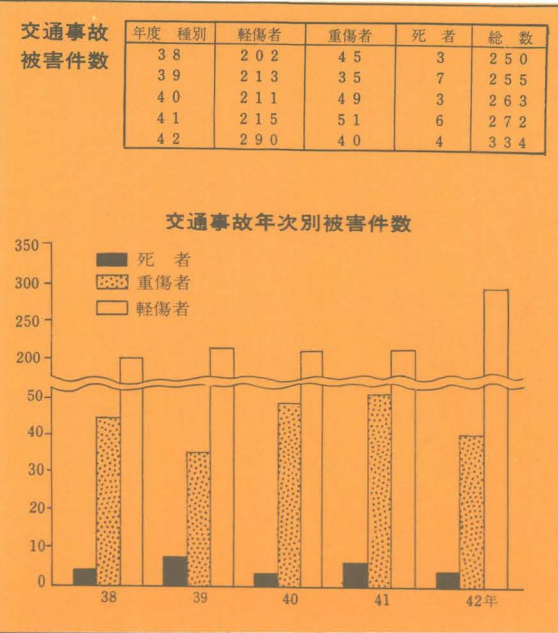
日野郵便局



日野電報電話局

警察

警視庁日野警察署は本市のほか稲城町、多摩町を管下に、派出所 9、駐在所 16ヶ所を有し、地域の治安維持のため、犯罪捜査に画期的な進歩をたどり、事件の早期解決は勿論であるが、これを未然に防止すべく努めている。



甲州街道仲町歩道橋



日野警察署



園児の交通安全訓練

消防・防災

本市には、東京消防庁日野消防署と、その多摩平出張所があり、署員81名をもって、火災や水害などから住民の生命、財産を守るとともに、家庭、工場等の予防査察を行なうなど災害防止に努めている。

一方、市内全域に組織されている消防団は、8分団25部、540名の団員により編成され、初期消火の大役をはたされると共に、水防団も兼ね常設消防署との連携を密にし、初期消火並びに災害防止に努めている。

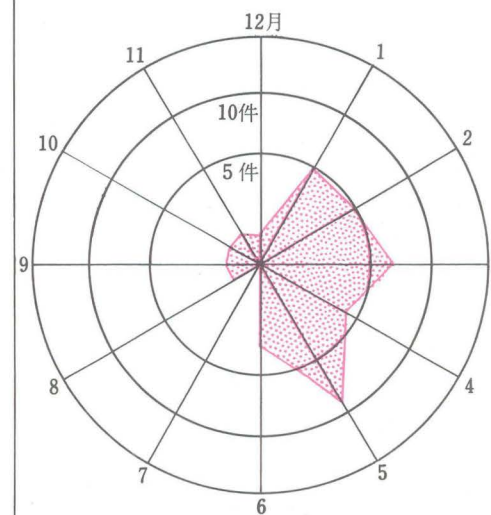


日野消防署多摩平出張所



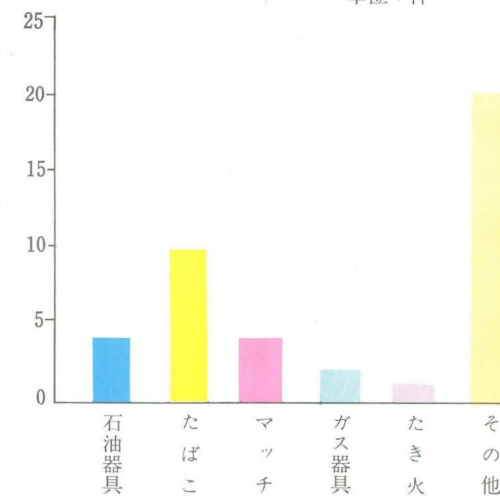
恒例の出初式

月別火災発生件数（昭和42年）



出火原因別件数（昭和42年）

単位：件





消防署員と消防団合同の防災訓練

救急車出動状況

種別 年度	火災	交通	労災	運動 競技	一般 負傷	自殺 行為	犯罪	急病	その他	計
38	2	181	22	4	65	15	8	160	8	465
39	2	229	26	10	57	11	9	220	7	571
40	4	219	24	3	77	17	7	296	19	666
41	3	230	27	9	98	31	17	365	28	808
42	6	204	34	12	85	16	13	417	45	832

救 急 病 院

市立総合病院 多摩平 6-1 (電 81-2677)

花輪病院 日野 2537 (電 82-0061)

石塚病院 多摩平 3 (電 82-0563)



市民の生活

(掲載数字は昭和42年度調査による)

出生



1日に
5.6人

死亡



1日に
0.8人

結婚



1日に
2.3組

離婚



1日に
0.2組

転入



1日に
29人

転出



1日に
21人

水道



1世帯
1日あたり
 $0.7m^3$

火災



1日に
0.1件

電話



2.5世帯
に1台

交通事故



1日に
0.9件

医師



市民750人
に1人

教員

小学生28人
に1人・中学
生24人に
1人

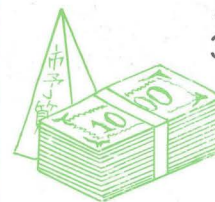


市税



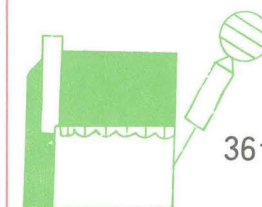
市民1人
あたり
14,090円

市予算



市民1人
あたり
38,046円

商店



36世帯に
1店

産 業 と 観 光



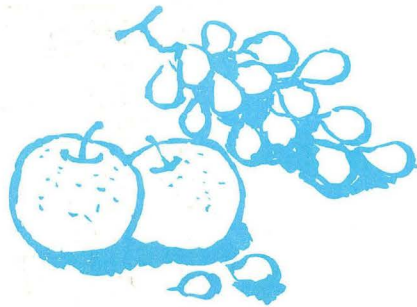
多摩川梨

農 業

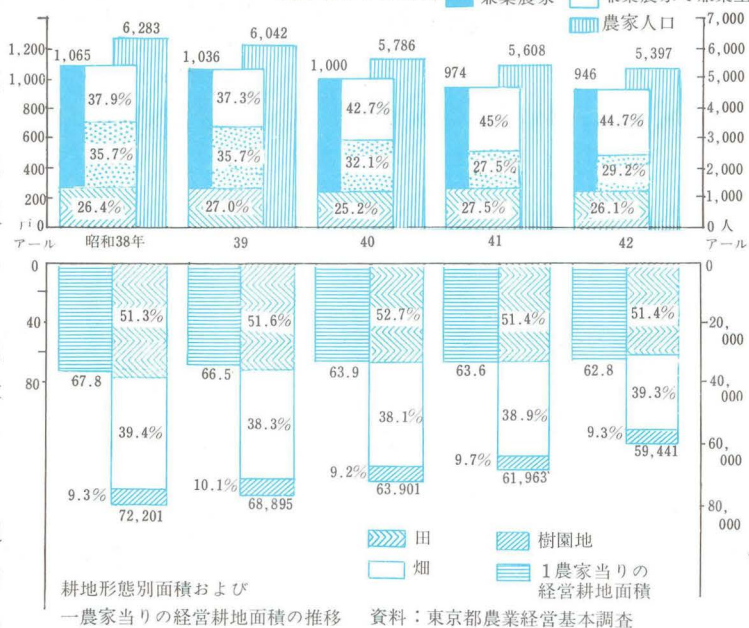
本市の農業は、市街化の急速な進展に伴い、農業生産基盤である農地は年々減少し、農家労働力も他産業への流出により変りつつある現状からして、都市近郊の立地条件を生かして、経済性が高く収益性の多い、そ菜園芸が中心に行なわれている。

多摩川沿岸には梨を主体とした果樹栽培が行なわれ、市内の観光地への観光客と合わせ「梨のもぎとり」が盛んになっている。

市では、温室団地の形成等を推進し、適地適産の生産を強力に押し進め、経済的に自立できる農家の育成と農業施設の集団化を計りつつ、近代的農業の振興に努めている。



専・兼別農家数と農家人口の推移
(毎年2月1日現在)



花きの温室栽培



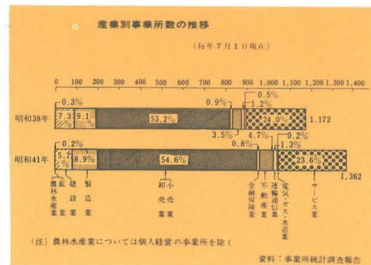
農産物共進会

商 業

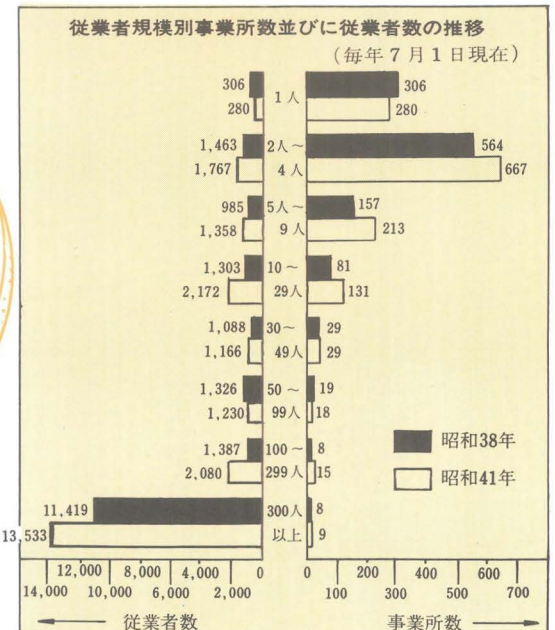
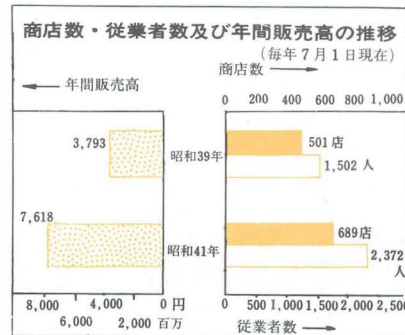
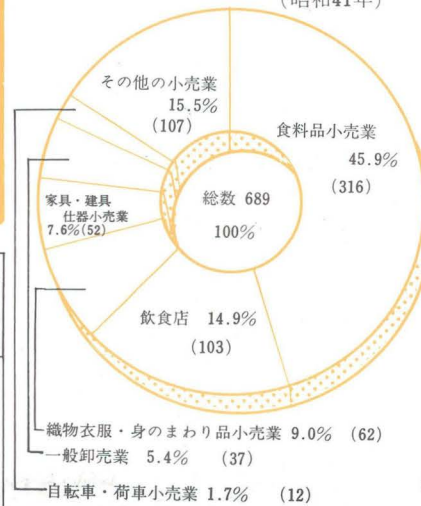
本市の商業は、中央線と京王線が北と南を貫通し7駅を有するが路線が接続しないうえ、南北を結ぶ道路網が不十分なため、発展はそれぞれの小地域の規模にとどまり、客足が集中する中心地帯がなく、その上隣接の立川、八王子の経済圏の谷間にある関係からして、近代経営に立遅れた感がある。

しかし、昭和33年頃より多摩平団地の開発に伴う人口増等による先進的商店の進出に刺激され、近代化が取り入れられる傾向にあり、市としても商業振興には大いに力を入れ、経営の改善指導に努力している。

また、商業発展のにない手である商店員の厚生施設の改善を積極的に推進するため、昭和42年度より資金の貸付制度を実施している。



種類別商店数
(昭和41年)



工 業

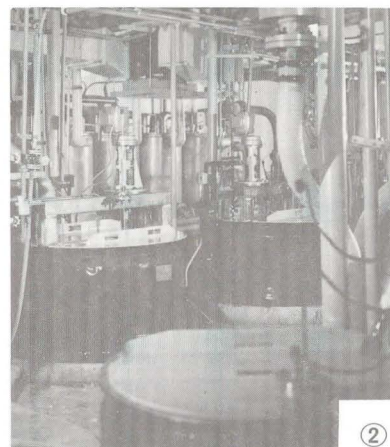
昭和の初期までは農業を中心に繁栄していたが、昭和10年頃を契機として、小西六、日野自動車、富士電機、羽田ヒューム管、神鋼電機、オリエン特時計と機械工業の進出が相つぎ、工業都市としての様相を呈してきた。

さらに昭和30年台には、工場誘致の奨励、並びに平山台区画整理による工場団地の造成等により、帝人、東芝電気、千代田自動車、雪印乳業等の建設をみ、昭和41年の工業統計調査によると、市内工業の従業員は15,897人で、年間総生産額806億8千5百万円におよんでいる。

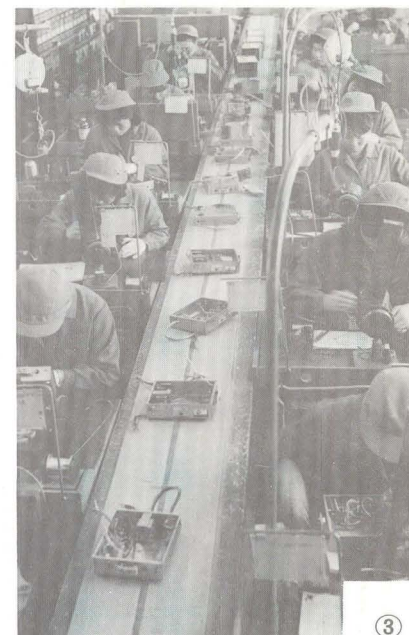
1. 日野自動車工業(株)日野工場
2. 小西六写真工業(株)日野工場
3. 富士電機製造(株)東京工場
4. 東京芝浦電気(株)日野工場
5. 神鋼電機(株)東京工場
6. オリエン特時計(株)日野工場
7. 雪印乳業(株)日野工場



①



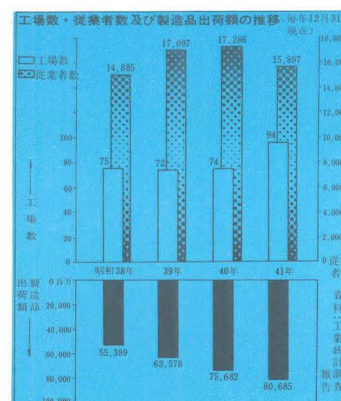
②



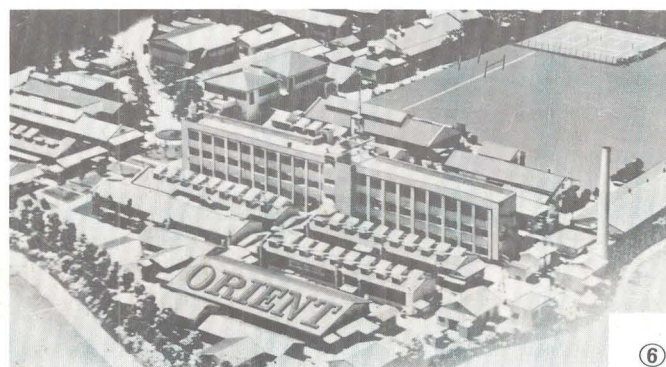
③



④



⑤



⑥



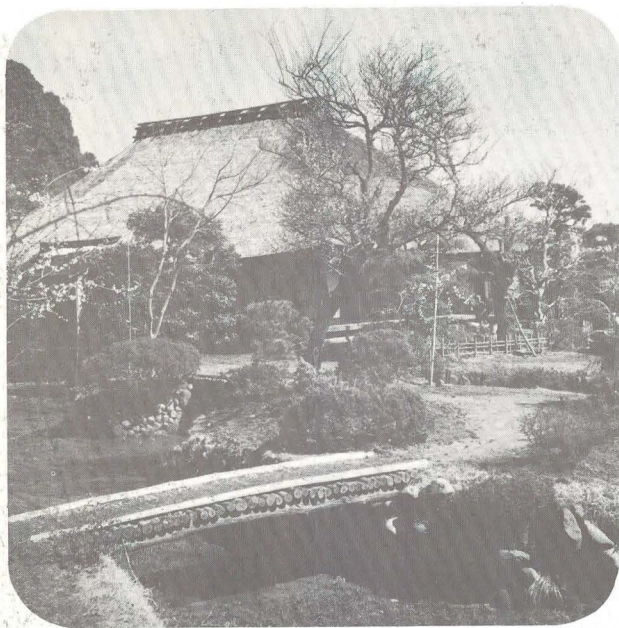
⑦

観 光

市の北部に多摩川、中央部には浅川が流れ、その南には多摩丘陵自然公園があり、広く都民の観光地として親しまれている。昭和33年に都立多摩動物公園が開園され、三多園、高幡不動平山城址公園など一帯の観光地と脚光をあびている。



高幡不動の「鳴り竜」



百草園



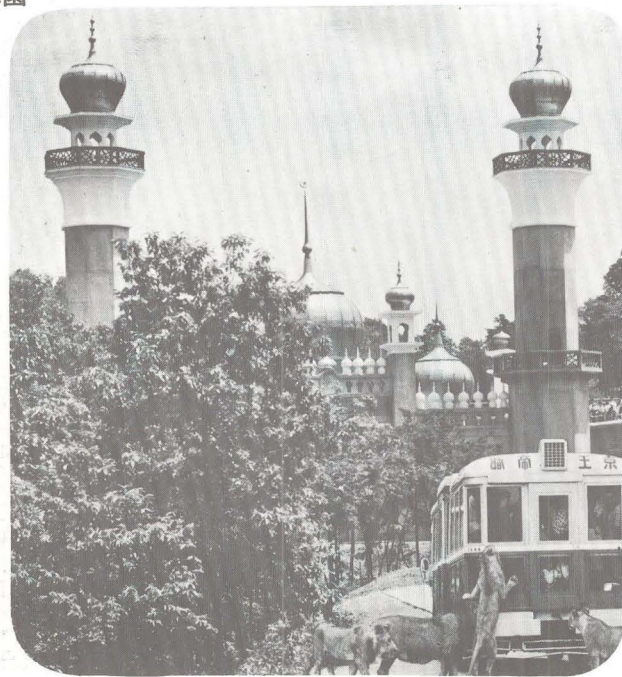
多摩テック



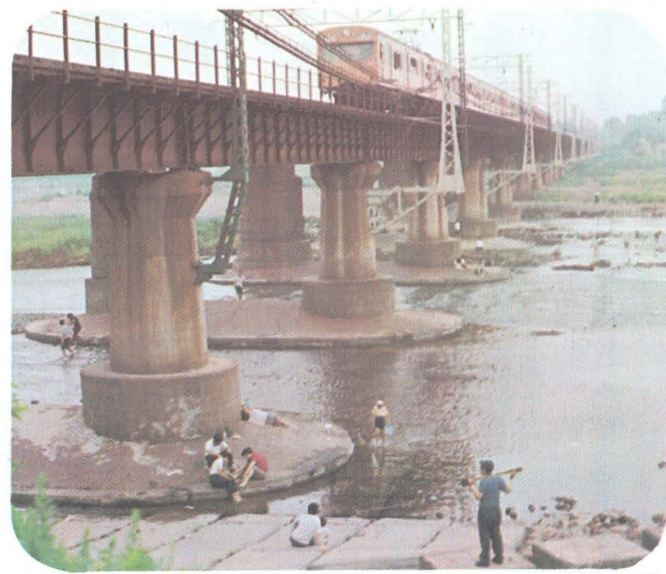
高幡不動尊



平山城址公園



都立多摩動物公園



多摩川

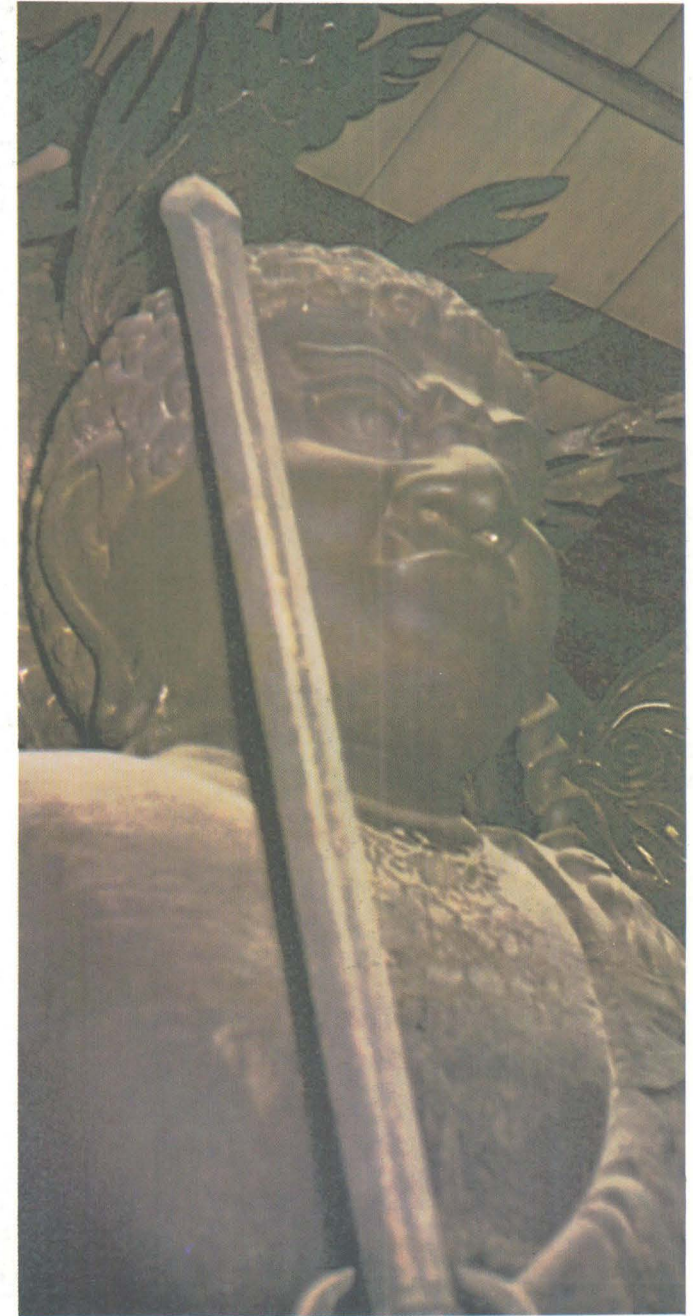
市内文化財一覽

区 分	名 称	指 定	所 在 地	所 有 者
国、重要文化財	金剛寺不動堂	文部省	高幡695	金剛寺
"	金剛寺仁王門	"	"	"
"	銅造阿弥陀如来像	"	百草867	百草八幡神社
都重文(建造)	金剛寺五部権現社殿	東京都	高幡695	金剛寺
" (彫刻)	木造阿弥陀如来像	"	下田31	安養寺
(史 跡)	平山季重の墓	"	平山3061	宗印寺
都重文(典籍)	説法色葉集	"	日野3198	大昌寺
建 造 物	薬師堂	日野市	"4843	成就院
"	坂下地藏堂	"	"5707	横町自治会
"	八坂神社本殿	"	"2541	八坂神社
"	安養寺本堂	"	下田31	安養寺
絵 画	涅槃図	"	日野3323	宝泉寺
彫 刻	薬師如来像	"	"4897	成就院
"	平山季重木像	"	平山3061	宗印寺
"	平山薬師如来木像	"	"	"
"	日奉地藏	"	"	"
"	百草観音	"	百草849	百草自治会
"	毘沙門天立像	"	下田31	安養寺

区 分	名 称	指 定	所 在 地	所 有 者
彫 刻	阿弥陀如来像	日野市	日野3549	四谷自治会
典 籍	大政官制札	"	落川640	中村直男
考 古 資 料	七ツ塚古墳	"	日野	"
史 跡	百草園	"	百草560	京王電鉄
"	竹間加賀入道の墓	"	日野4365	佐々木徹
"	甲州街道万願寺一里塚	"	下田49	岩沢哲夫
"	東光寺大橋の碑	"	日野5064	東光寺自治会
"	大昌寺開山讃譽上人の墓	"	"3198	大昌寺
"	玉川居祐翁の墓碑	"	"3199	"
"	豊田堀之内耕地整理の碑	"	豊田201先	教育委員会
"	平山季重遺跡の碑	"	平山559	"
"	平山陸稻登見者林丈太郎墓碑	"	"3061	宗印寺
"	殉節両雄の碑	"	高幡733	金剛寺
"	延命寺文明の板碑	"	川辺堀之内552	延命寺
"	文永青石塔婆	"	南平	平清春
"	天平松連寺跡	"	百草560	京王電鉄
"	旧東光寺跡	"	日野4843	成就院
"	落川村制札場遺跡	"	落川640	中村直男
天然記念物	百草八幡権榎の林叢	"	百草867	青木広吉
"	八坂神社林叢	"	日野2541	八坂神社
工 芸	刀 剣	"	新井60	土方康
古 文 書	北条氏印判状	"	日野2761	佐藤 昱
"	三沢衆文書	"	高幡690	土方義春



戦国時代の三沢十騎衆文書



高幡不動仁王門金剛力士像

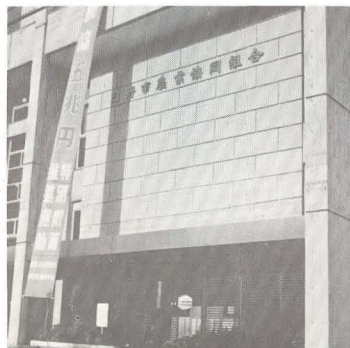
市内官公署等一覽

名 称	所 在 地	電 話
日 野 市 役 所	日 野 2 9 0 0	8 1 ~ 3 5 1 1 (代)
七 生 支 所	高 幡 6 8	8 1 ~ 0 0 3 1 ・ 0 4 9 3
多 摩 平 支 所	多 摩 平 4 ~ 3	8 1 ~ 5 2 0 1 ~ 2
日 野 台 出 張 所	日 野 7 2 2 1	8 1 ~ 0 1 9 1
豊 田 出 張 所	豊 田 1 0 4 9	8 1 ~ 0 2 2 0
平 山 出 張 所	平 山 2 8 9 7	8 1 ~ 4 7 4 4
警 視 庁 日 野 警 察 署	日 野 5 9 0	8 1 ~ 1 1 1 1
東 京 消 防 庁 日 野 消 防 署	日 野 2 8 0 2	8 1 ~ 0 1 1 9
日 野 消 防 署 多 摩 平 出 張 所	多 摩 平 4 ~ 3	8 1 ~ 7 1 2 0
都 立 多 摩 動 物 公 園	程 久 保 3 0 1	8 1 ~ 1 6 1 1
日 野 駅	日 野 2 7 8 2	8 1 ~ 0 1 0 3
豊 田 駅	豊 田 1 7 0 5	8 1 ~ 0 4 5 6
日 野 郵 便 局	日 野 2 6 1 7	8 1 ~ 0 1 9 0
七 生 郵 便 局	平 山 5 9 4	8 1 ~ 0 1 9 9
多 摩 平 郵 便 局	多 摩 平 1 ~ 4	8 1 ~ 2 1 9 1
豊 田 駅 前 郵 便 局	豊 田 1 0 4 9	8 1 ~ 3 1 9 8
日 野 台 郵 便 局	日 野 7 2 7 1	8 1 ~ 0 6 9 4
高 幡 郵 便 局	三 沢 7 2 7	8 1 ~ 7 6 9 5
日 野 北 郵 便 局	日 野 1 0 4 7	8 1 ~ 0 1 9 6
農 林 省 蚕 糸 試 験 場 日 野 桑 園	日 野 1 8 2 5	8 2 ~ 2 0 2 1
農 林 省 蚕 糸 試 験 場 日 野 第 二 桑 園	石 田 4 0 1	8 1 ~ 0 2 4 7

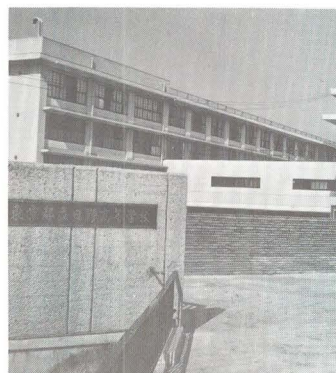
名 称	所 在 地	電 話
七 生 農 業 協 同 組 合	三 沢 7 0 1	8 1 ~ 2 0 1 1
日 野 市 農 業 協 同 組 合	日 野 2 8 3 5	8 1 ~ 0 0 1 9
日 野 電 報 電 話 局	多 摩 平 6 ~ 2 3	8 1 ~ 1 0 0 0
農 林 省 淡 水 区 水 産 研 究 所	官 3 9 9	8 2 ~ 0 2 0 8
建 設 省 第 三 出 張 所	日 野 2 8 3 5	8 2 ~ 0 4 0 8
東 京 都 南 多 摩 事 務 所 第 三 工 区	上 田 6 5 6	8 1 ~ 0 4 5 7
東 京 都 養 蚕 技 術 指 導 所	日 野 2 9 0 0	8 1 ~ 8 3 6 8
東 京 都 日 野 地 区 農 業 改 良 普 及 所	三 沢 7 0 1	8 1 ~ 2 0 1 1 (呼)
南 多 摩 東 部 共 立 病 院	多 摩 平 6 ~ 1	8 1 ~ 2 6 7 7
日 野 市 商 工 会 館	日 野 2 3 8 9	8 1 ~ 3 6 6 6
東 京 都 多 摩 犬 管 理 所	新 井 6 5 4 5	8 1 ~ 7 4 3 5
福 祉 施 設		
都 立 七 生 児 童 学 園	程 久 保 3 3 7	8 1 ~ 0 0 4 9
都 立 七 生 福 祉 園	程 久 保 8 4 3	8 1 ~ 0 0 2 6
社 会 福 祉 法 人 東 京 光 の 家	平 山 1 5 7 4	8 1 ~ 2 3 4 0
学 校		
都 立 日 野 高 等 学 校	石 田 1 9 0	8 1 ~ 7 1 2 3
東 電 学 園	百 草 6 ~ 1 1	8 1 ~ 7 4 5 1
実 践 女 子 大 学	日 野 6 3 1 2	8 1 ~ 6 0 7 1
明 星 大 学	日 野 6 3 1 2	8 1 ~ 4 2 6 5



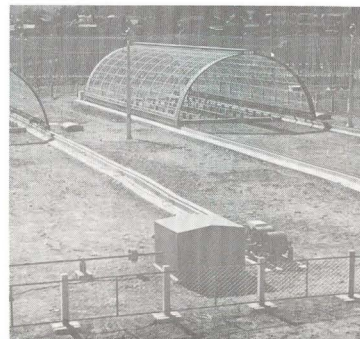
七生農協



日野農協



都立日野高校



農林省蚕糸試験場



農林省淡水区水産研究所

日野市勢要覧

1968年版

発行所 日野市役所
編集資料室

東京都日野市日野2900
電話0425～(81)－3511(代)

印刷所 日本複写工業株式会社
TEL (402)5087・(404)8513



日 野 市 役 所
東京都日野市日野 2 9 0 0